「北京へ！」



(財) 日本ハンドボール協会会長　**渡邊 佳英**

本年度は、北京オリンピックアジア地区予選が開催される年であります。男子は豊田市、女子はカザフスタンでの開催が決定しています。男子は1988年のソウルオリンピック出場以降、女子は1976年のモントリオールオリンピック出場以降、出場権を逃しています。特に男子は、前回神戸市にて開催されたアテネオリンピックアジア地区予選において、最終韓国戦に、あと１点のところで引き分けに終わり、得失点差で出場権を得ることができず、非常に悔しい思いをしました。今回こそ、男女ナショナルチームが予選を突破できるよう、日本ハンドボール協会は、川上新専務理事を中心に、一丸となって総力を挙げていきます。

また、日本ハンドボール協会は、昨年度から引続き「Jump to the World（世界に跳び出せ）」をスローガンに掲げ、本年度もプロジェクト21の目標である

1．2010年にハンドボール人口を日本で全スポーツ競技の３位に、そして小学生チームを育成する
2．オリンピックに常時出場し、メダルを獲得できる実力をつける
3．日本ハンドボール協会が人、物、金で自立できる体制にする

を達成すべく、各種事業を実施していきます。

そのためにも企画委員会を充実させ、３つの目標を確実に達成していけるよう日本ハンドボール協会の各種事業を見直し、普及、強化、財務等各部門と連動しながら行い、最大の相乗効果が出るよう企画調整していきます。

さらに、普及・強化の事業である「指導者育成事業」、「ジュニア3000プロジェクト（J3000)」、「ナショナルトレーニングシステム（NTS)」、「がんばれハンドボール10万人会」は強化とともに、日本のハンドボール基盤を構築するものとしてさらなる充実を目指していきます。

近年、日本ハンドボール協会の事業は年々その規模を拡大し、財政難に喘いでいます。そこで企画・マーケティング部門の強化と全国の加盟団体・企業様の協力を得て、財政基盤の確立を目指していきます。また、事業を滞りなく実施するためには、ハンドボールに携わる役員の育成とともに事務局体制の拡充と強化も必要です。

以上の課題と目標を踏まえて、積極的に事業を展開していきます。

本年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようあらためてお願い申し上げます。

平成19・20年度　(財) 日本ハンドボール協会役員

会　長　渡邊　佳英	理　事（常務理事待遇）　伊藤　宏幸（新任）	理　事　森安　昭雄
副会長　市原　則之	理　事（常務理事待遇）　大橋　則一（新任）	理　事　高山　重雄
専務理事　川上　憲太（昇格）	理　事（常務理事待遇）　島田　房二	理　事　奥田　政俊（新任）
常務理事　西窪　勝広	理　事（常務理事待遇）　田中　茂（新任）	理　事　宮元　章次
常務理事　兼子　真	理　事　大畑　孝広	監　事　川上　整司（新任）
常務理事　角　紘昭	理　事　福地　賢介	監　事　荘林　康次（新任）
常務理事　蒲生　晴明		監　事　高田　日呂美（新任）
常務理事　江成　元伸		

北京オリンピックアジア予選大会に挑む！

（財）日本ハンドボール協会強化本部長　蒲生 晴明

2003年9月神戸で行われたアテネオリンピックアジア予選から、もうすでに4年が経過しました。男子は、1988年ソウルオリンピックから、20年間5大会ぶり出場。女子は1976年モントリオールオリンピックから、32年間8大会ぶりの出場を目指します。

第一に、何としてでも出場権を獲得したいということから日本ハンドボール協会は、早くからアジアハンドボール連盟（AHF）や国際ハンドボール連盟（IHF）などに働きかけて、「男女日本での開催」を打ち出しました。AHFで男女セパレート開催が決まりましたが、日本での男子開催を勝ち取ってきました。また、豊田市の新体育館の完成に合わせて開催ができるように愛知県ハンドボール協会・豊田市ハンドボール協会のご支援をいただき鋭意進めてきました。
　また、男女ともに外国人監督を招聘し新しい流れと考え方を取り入れて、強化しています。

男子は、9月1日からアジア予選が始まります。参加国数は確定していませんが、韓国・クウェート・イラン・カタール・日本の5カ国は出場すると考えられます。出場権争いはこの5カ国と予想されます。
　昨年12月のアジア大会では直前のジャパンカップ・クロアチア遠征の好調さを発揮できず、思ったような結果が得られませんでしたが、リマニッチ監督は、選手の起用や基本的な戦術について手応えを感じていました。1月の強化合宿では、戦術の徹底と更なる強化のために選手とのコミュニケーションに時間をかけていましたし、気持ちの高ぶりを示していました。トレーニングについても、かなりハードな内容にバージョンアップしてきています。今後は、5月・8月にヨーロッパ遠征、6月・7月には、国内での国際試合など30試合程度の国際試合を経て、9月のアジア予選に入る計画を立てています。

一方、女子は8月25日からカザフスタンで始まります。韓国・カザフスタン・日本の3カ国のほかにチャイニーズタイペイ・中央アジア諸国や北朝鮮などの出場が考えられますが、出場権争いは韓国・カザフスタン・日本の3カ国と予想されます。昨年12月のアジア大会では、3位決定戦で中国を久しぶりに破っての「2大会8年振り銅メダル獲得」は、よい弾みになっています。特に6名がヨーロッパでのプロ選手として育成の場を移していることがプラスとして機能しはじめてきたと、感じられました。体格の小さい日本は長身選手をそろえる韓国・カザフスタンには、戦術だけでなく気力とスタミナで勝ることが重要と考えられます。6月から長身選手の多いチームと対戦するためにヨーロッパ遠征を実施し、7月上旬には国内でのヒロシマ国際大会にヨーロッパクラブチームの強豪チーム「Hypo NÖ」を招いて現況を探る計画です。さらには、ソウルカップに出場し、試合を通じて強化して行きます。

このような計画を進めながら、コーチングスタッフと選ばれた各選手が「何としても勝つんだ！」という「強い気持ち」と「厳しいトレーニング」をクリアして「精神的な逞しさ」を磨くことが重要であります。日本ハンドボール界全員の熱意と希望に応えるためにも、残された日々を高いモチベーションと闘争心をもって充実させていかなければなりません。

北京オリンピックの出場権は、以前と同様にアジア予選で優勝することで「北京オリンピック出場権獲得」。今回から男子は、アジア大陸予選で第2位になるとIHF最終予選に出場できるようになり、そこでは、各グループで上位2カ国に出場権が与えられます。女子は、12月の世界選手権で優勝国が出場権獲得。世界選手権の結果によって、アジア大陸からIHF最終予選の出場国数が決まります。しかしながら、男女ともに最終予選はヨーロッパ各国が多数出場してくる可能性が強く、チャンスはあるものの相当厳しいことが予想されます。したがって、何としてもアジア予選での優勝を狙っていくことが必要です。

北京に向けて 応援メッセージ 第1回

悲願の北京オリンピック出場に向けて、オリンピック代表のOB・OGの方から応援のメッセージを寄せていただきました。

オリンピックを振り返って

中川 照美（モントリオールオリンピック出場）

モントリオールオリンピックを振り返る前に、どうしても書きたい事があります。それは、超人伝説ともなった1997年に熊本で開催された男子世界大会。早いものであれからもう10年。今でもあの熱いプレーがよみがえってきます。連日ハシゴして、各会場を走り回って、興奮した日々がとてもなつかしく思い出されます。

さて、私達も「男子に続こう」を合い言葉に、オリンピック出場権を獲得するまで過酷な戦いと、波乱にみちた出発でした。まず、アジア代表権を得るために避けて通れぬイスラエルとの密室試合。今思えば笑えてくるが、当時の日本協会関係者の方々の御苦労のおかげで、東京重機の体育館で、勝利できた事を記憶しています。

それから、オリンピック直前の三大陸代表決定戦、アメリカに乗り込む。二回戦総当りでした。重圧をはねのけて悲願のオリンピック出場権獲得。お互い何度頬をたたき合って喜んだ事か。また、未決定なうちに、仮縫い中の日本選手団のブレザー。これが､急ピッチで仕上げられるとの事、うれしかったですねー。ところが、予選期間中いつも同行して、親切に世話してくれる人がいて、その人があとでとんでもない人物だった事に驚かされるのです。

オリンピック選手村に入ったのは、私達ハンドボール女子が一番でした。もちろん入村式で日の丸を揚げたのも私達です。残りものには福がある？ってとこかな。男子の皆さんにはブレザーを日本から持って来てもらった事、30年



左から島田さん、中川さん、古佐原さん



経った今お礼を申し上げます。

ところで、試合内容は世界大会上位4カ国との戦いで、苦戦を強いられたが、ルーマニアとの一点差は悔やまれてならなかった。残るカナダ戦に全てをかけた。ところが、アメリカで世話係だった人物が、カナダベンチに座っているではないか。「やられたァー」と思いましたね。試合が始まっても皆落ち着かない。フォーメーションも通用しない。攻守ともにまとまらない。焦りと時間だけが過ぎていく。後半、個人プレーで反撃、やっと同点で落ち着く。あとは、無我夢中で何も覚えていません。貴重な一勝でした。

世界大会とは違う、オリンピックの持つ魅力、是非皆さんにも味わってもらいたい。自分達のハンドボールに比べ、スピード・パワー・テクニックに全てが上回っていると思います。あとは、外国人に慣れる事、リーチの長さなど自分の体に覚えさせる事だと思います。

オリンピックの参加が実現すれば、ハンドボールの知名度も高まり、女子の世界大会が日本で開催される事も、夢ではないと思います。心から声援を送ります。また、協会関係者の方々の御活躍をお祈り申し上げます。

（注）中川さん（旧姓：蔵田さん）は、モントリオールオリンピック大会の得点王を獲得されています。

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2007

最終順位：優　勝　金沢市役所（石川）（初優勝）
準優勝　高知クラブ（高知）
第３位　八光自動車工業（大阪）
第４位　セントラル自動車（神奈川）

■大会総評

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2007・高知大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　原田 孝幸

【はじめに】

今大会は、全日本実業団トーナメント大会から通算して38回目の大会となり、また高知県では２年ぶりとなる大会として高知県ハンドボール協会及び高知市の方々にご協力を頂き、大変盛大に行なわれました。

この大会への参加は、企業内での位置づけに苦慮し、残念ながら昨年より出場チーム数が３チーム減少した中で行なわれましたが、参加各チームは、日頃のトレーニングの成果を遺憾なく発揮し、見ごたえのある大会となりました。

また、一昨年から参戦して頂きました高知クラブが３年連続の出場となり、今回は、地元ホストチームとして会場を盛り上げ、熱気に満ちた雰囲気づくりを行なっていただきました。加えまして、高知県の皆様や、モルテン様、並びに地元企業など、支援していただきました皆様方には大変お世話になり、立派な大会が運営できたことを、この誌面を借りまして改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【大会全体を振り返り】

組み合わせは、シードチームとして、昨年優勝の八光自動車工業を第１シード、３位の高知クラブを第２シード、４位のセントラル自動車を第３シードと致しました。

今回の参加チーム数が13チームと奇数であったため、シードチームは第３シードまでとし、残り10チームの組み合わせは、昨年の結果に基づき、１回戦では同地区対戦を避け普段対戦できないチーム同士での組合せとなるようにグループ分けを行い、抽選を行ないました。

また、試合形式も貴重な時間を裂き遠方から参加していただいたチームが、１回戦だけで終わることなく、大会を楽しんでもらえるように敗者戦を設けました。

今回は地元チームである高知クラブの参加により、新聞等が大会開催案内や試合結果を連日大きく取り上げてくれた効果もあって、観客も多く昨年の兵庫県での国体リハーサル大会として開催された大会に匹敵する熱気の中で、各チームはもちろんのこと地元運営者の方々の機敏な行動で活気ある会場となっていました。そんな中で、企業スポーツが、依然として厳しい風が吹く状況を吹き飛ばすような選手たちの活躍が光っていました。

試合結果は、攻守に安定感のあった金沢市役所が３連覇の懸かっていた八光自動車を準決勝で破り、決勝戦でも地元高知クラブを退け、見事に初優勝を飾りました。２位には地元開催の優位性を生かし、スピードあるプレーで決勝まで進んだ高知クラブが、金沢市役所には破れたものの見事な戦いで準優勝に輝きました。３位には、連覇は逃したもののパワー溢れるプレーが光った八光自動車が、４位には最近若手が加入し勢いがあるセントラル自動車が入りました。

最後に、改めて参加チーム、高知県ハンドボール協会関係者並びにスポンサー各位に感謝申し上げますとともに、来年も今年より参加チームが増え、盛り上がった大会となりますように、ご協力をお願い申し上げます。

■優勝チームの声

伝統は繰り返されるからこそ価値がある

金沢市役所ハンドボール部　秋田 啓秀

タイムアップのホイッスルが体育館に鳴り響いた瞬間、創部42年、悲願の「初優勝」の歓喜の輪に笑顔の花が咲き、喜ぶ若手選手を眺めながら、ふと昔を振り返った自分がベンチにいました。

6年前、創部36年で初めて3位に入賞しました。それ以前にも日本リーグ2部チームに勝つなど力はあったのですが、なかなか上位に食い込めないという壁がありました。

そして迎えた平成14年、念願の決勝の舞台に初めて上がりました。結果は惨敗、相手は日本リーグ1部を脱退間もないデンソー（愛知）でした。準優勝という立派な成績でしたが、GKとしてコート上にいた私にとっては今まで味わったことのない屈辱的な内容でした。

そして翌年、2年連続の決勝進出で相手は宿敵デンソー。アスリートにとって願ったりもない、「リベンジ」の最高の舞台が用意されました。結果は敗退、ラスト1分30秒までのリードを守ることができませんでした。仲間はみんな力を出し切り、気持ちのこもったプレーで最後まで懸命に走ってくれました。みんなの勇気は私に充分伝わり、感謝の気持ちでいっぱいでしたが、敗れた悔しさを隠すことはできず、人目を気にすることなく36歳にして大泣きした自分がいたものです。

あれから3年、準々決勝から苦しい試合の連続でしたが試合を重ねるたびに強くなっていく、そして、チームが一つにまとまっていく、そんな状態で決勝を迎えました。決勝の相手は一昨年の大会の準決勝で惜敗した高知クラブでした。地元の声援もあり、完全アウェー状態で優位とは言い難い状況でのスローオフとなりました。しかしながら、「今度こそ優勝」を合言葉に準決勝までの勢いを止めることなく、いいえ、更なる勢いを増したチームは立ち上がりからコートを縦横無尽に走り続け、終わってみれば相手に一度もリードを許すことなく完勝の優勝で終えた今大会でありました。

3年前のデンソー戦に敗れたとき、コートに立っていた選手は今2人しかコート上にいません。ときが流れ、今まで我がチームを支えてきた仲間はコートの外から見守る存在となっていました。今大会、監督代行でベンチから指示を出していた私もその一人であります。少し淋しい気もしますが、私は、それでもいいと思いました。伝統とは繰り返され、また新しいものが生まれていくからこそ価値があります。我が金沢市役所ハンドボール部も今、新しい伝統が築かれていくことを私は信じ見守っていきたいです。

最後になりましたが、チームを支えてくださったOBの皆さん、それから選手全員の家族の皆さんに、この金メダルを贈りたいと思います。本当にありがとうございます。そして何より素晴らしい仲間と出会い「和をもって輪を成した」このことを私の自慢話にしたいとそう思い、幸せで穏やかな気持ちでエンドロールが流れていった今大会でありました。



平成19年度 事業計画

平成19年4月1日　（財）日本ハンドボール協会

1．普及・指導に関する事業

《普及関係》

【基本方針】

1．普及委員会

①普及プロジェクト21の推進

・ブロック会議開催

指導者育成、地域における指導者ネットワークの構築、少年チームの実態把握

②公認指導者体系の整備

③普及施策の検討

・U－15対策会議

・地区大会・交流会の推進

・異種目スポーツとの連携事業

2．小学生専門委員会

①小学生を中心としたジュニアチームの育成

・市町村協会でのスポーツ教室、スポーツクラブの育成

・郡市町村ハンドボール協会の設立促進

・チーム登録の徹底

②小学生大会運営マニュアルの検討

3．学校体育ハンドボール検討専門委員会

①指導要領対策

②小学校における教科体育ハンドボール授業の実践推進

③学校体育ハンドボール研究大会の推進

4．中学生専門委員会

①チーム登録の徹底

②指導者養成、チーム育成事業の充実

③中学生大会の充実

5．生涯ハンドボール体系の確立

①ビーチハンドボールの普及・全国大会の開催

②マスターズハンドボールのあり方の検討

③車椅子ハンドボール等の支援

6．女性委員会（プロジェクト）

①女性指導者の実態把握、関係機関への参加促進

【重点施策】

1．小学生チームの運営研究

・小学生専門委員会を中心としてスポーツ教室、クラブチーム、ブロック・都道府県における小学生チームの組織化

・大会運営方法の検討

2．小学校教科ハンドボールの普及と次期指導要領改訂対策

・実践研究発表会の充実

・発育発達に応じた指導普及マニュアルの作成

3．中学生チームの普及と活性化

・全国中学生大会の充実

・（財）日本中学校体育連盟との連携

・NTSとの連携

4．生涯ハンドボール体系への基盤整備

・少年スポーツ教室・クラブの充実・各ブロックマスターズ大会の実態把握

5．女性指導者への情報提供

・アンケート結果の報告。女性指導者の抱える問題点の解決情報を提供。

《指導関係》

【基本方針】

1．指導者の育成

①指導組織の整備

②都道府県における日本協会公認J級指導員及び（財）日本体育協会公認ハンドボール指導員の養成

③コーチレフェリーシンポジウムの開催

④大学における（財）日本体育協会公認ハンドボールコーチ専門科目認定コースの設置について

⑤講習会講師の育成と組織整備

2．海外派遣による研修と情報収集

3．技術・指導情報の広報

4．NTSとの連携

【重点施策】

1．日本協会公認J級指導員養成、（財）日本体育協会公認ハンドボール指導員養成講習会の実施

・U－19までの指導体系の確立

2．コーチシンポジウムの開催

・上級指導者養成

3．公認指導者組織の整備

・各ブロック・都道府県における研修体系の確立

4．NTSとの連携

2．競技運営に関する事業

【基本方針】

1．北京オリンピックアジア予選愛知・豊田大会の管理運営にあたる

2．日本協会主催、共催大会及び国際大会の管理運営にあたる

3．大会運営、競技運営の組織化を具体化する

4．大会システムの再編を図る

5．よりよい競技用具を使用し、最高のプレーを目指し、競技用具の改良と検定にあたる

6．国民体育大会の活性化、簡素化、効率化の推進を図る

7．登録業務の迅速適正処理を図る

【重点施策】

1．北京オリンピックアジア予選愛知・豊田大会の開催にあたり、国際連盟、アジア連盟、愛知県協会と連携を取り、大会成功に向け組織的な運営にあたる

2．日本協会主催、共催大会及び国際大会の運営にあたり、主管団体との調整を図った組織的運営にあたる

3．競技役員の資質向上を目指し、養成を図るとともに、競技運営マニュアルの改訂を図り、共通理解を深める

4．競技用具の改良を目指し、製造業者と懇談をする

証紙、検定証、証布が適正に貼付されているか、継続的な抜き打ち検査を実施する

5．日本体育協会と連携を保ち、国民体育大会に関する諸問題に対応するプロジェクトを展開する

6．競技者登録人口として10万人登録を目標とする

3．国際に関する事業

【基本方針】

1．世界のハンドボール連盟との連携と貢献

2．（財）日本ハンドボール協会の国際的活動を支援

3．国際大会等の支援（連絡・交渉・情報収集）

4．国際会議への参加と支援

5．国際委員会活動の活性化

【重点施策】

1．（財）日本ハンドボール協会の国際的地位向上

・日本協会役員・委員を国際会議に派遣し、IHF・AHF等の役員・委員となる環境を整える。そのため国際会議などに年間2回又は2名の役員を派遣する。

2．外国の情報を収集

・試合ビデオ等の情報を入手する

・情報収集のための拠点作りをする

3．国際大会、海外交流の支援

・国際大会出場チーム、海外派遣選手・役員の支援

・国際会議、研修会等への派遣役員の支援

・IHF・AHF役員の来日（空港送迎・ビザ発給等）支援

4．国際会議の開催と支援

・国際大会の国内開催を機に、国際会議の開催を支援する

・国際委員会主導の国際会議を提案する

4．競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】

1．トップレフェリーの資質の向上

ナショナルチームが競技力をさらに向上させて北京オリンピックに出場するためには、トップレフェリーの審判技術向上

も重要な要素となる。よって、現在のトップレフェリーの資質向上のため、トップレフェリーを対象とした研修会を開催する。また、より資質の高い次世代トップレフェリーを輩出するため、NTSとの連携を深めて若手レフェリーの育成を図る。

2．競技規則の正しい運用
各地区で開催される審判員講習会において、IHFの発行した審判員指導書とDVDを活用し、競技規則の正しい運用について理解を深めさせる。

3．オーダーメード審判指導
審判審査指導委員による評価活動の成果を綿密な審判指導に活かすため、「審判員の手引き」を作成して具体的な指導内容を個々に記載し、これに基づいて評価を行い、次の指導につなげていく。

【重点施策】

1．視聴覚教材の充実
IHFから配布された審判指導DVD（初心者審判の指導用DVD）の作成。

2．審判員評価事業の効果的な展開
審判評価の結果と指導内容を各審判員に伝える様式について検討する。

3．ヤングレフェリープロジェクト（YRP）の充実
将来のIHFレフェリーを育成するため、YRPの一環として中学生レフェリーを育成する。そのためYRPの手引きの内容更新を検討する。
また、IHFレフェリーを目指す、レベルの高い若手レフェリーを全国大会に積極的に派遣し、次世代コンチネンタルレフェリー候補ペアをつくる。

4．継続行事の実施
都道府県協会認定のD級、ブロック協会認定のC級、日本協会認定のA・B級審査会、審判員評価、レフェリーコース、YRP、審判部合同委員会のあり方を見直し、審判部運営の充実を図る。

5．審判員登録の徹底
現在選手・役員登録証の確認をしているが、審判員登録証の確認ができていない。直接的あるいは間接的に、チーム関係者に対して登録審判員であることを証明する義務があると考える。提示方法を工夫する。

5．競技力向上（強化）に関する事業

【基本方針】

「セクションを越えた協力体制で北京オリンピック出場」
北京オリンピック出場のための強化施策立案と同時に、強化に関して「構造改革」を継続して実施する。
2007年度は、北京オリンピックアジア予選が開催されるので、男女代表チーム強化に重点を置き、事業を展開する。また、NTSをシステムとした「発掘・育成・強化・指導」について、競技者育成技術委員会を調整機関として、各委員会とセクションを越えた協力体制をとって、将来にわたりオリンピック・世界選手権に出場できる体制を推進していく。

【重点施策】

1．北京オリンピック出場のための代表チーム強化施策
・年度予算を男女代表チームに重点配分する（強化全体の68％）
・代表チームを柱とした事業を展開し強化費確保を実施（目標100万円以上）
・海外国内での国際試合や日本リーグチームとのトレーニング試合を実施する
・オリンピック予選までに20試合以上の実践を目標とする

2．少数精鋭＆重点強化体制の着実な運営
・代表チームやunderチームの遠征・強化合宿では、参加人数を少数とし重点的に強化する。代表チームは、海外遠征：18名以下、強化合宿：21名以下、underチームは、海外遠征：16名、強化合宿：20名以下とする。

3．年齢カテゴリー別の体制確立
・NTSと連携して各カテゴリーの年齢別代表チームを少数精鋭メンバーで構成し、強化合宿回数2回以上を目標にする。年齢毎に5～7名の強化指定選手とする。大会や強化合宿では、NTSセンタートレーニング強化指定選手を対象にフレキシブルにノミネートし競い合わせる。
・代表チームをはじめunderチームスタッフは、ナショナルスタッフチームとして、カテゴリー強化合宿・NTSなどによって指導育成する。

4．日本リーグチームとの連携強化
・代表チームと日本リーグチームとの連携をとり、常に北京を目指せる強化を図って、トップコーチを育成していく
・中期検討プロジェクトの中で、将来の日本リーグの方向を検討する

5．情報・科学サポート
情報科学専門委員会は、分析研究（ゲーム分析など・体力面など）を行い代表チームのサポート等を実施する

6．医事専門委員会のサポート
医事専門委員会は強化本部に所属して、ドクター・トレーナーの派遣とアンチ・ドーピング活動を実施する。

6．機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌を通じ、日本協会全体の情報を共有化し、全国のハンドボール関係者の意識の統一を図り、ハンドボール界の発展に寄与する。

【重点施策】

1．ナショナル情報「北京への道」コーナーを設置し、ナショナルチームの動きを伝える
2．IHF・AHF・EAHFのニュース、協会の方針、理事会・各委員会・各連盟・企画記事等を掲載する
3．インターネット情報との連携を図り、記事の整備・拡大に取り組む
4．機関誌のあり方を考え、機関誌発行回数と内容の充実について検討する

7．企画に関する事業

【基本方針】

1．プロジェクト21の推進
①2010年にハンドボール人口を日本で3位に
②オリンピックに常時出場し、メダルを獲得できる実力
③日本ハンドボール協会が人、物、金で自立化

※プロジェクト21の遂行に当たり各部会、特命事項への対応を行い、重点項目計画の調整、立案、運営効率化の提案を行い各部会からの緊急要請事項に対応する。

【重点施策】

1．北京オリンピックアジア予選大会の企画
2．豊田市プレ大会の企画
3．ヒロシマ国際大会の企画
4．熊本WC 10周年記念大会の企画
5．壮行試合、壮行会等の企画、立案

8．広報に関する事業

《広報事業》

【基本方針】

1．ハンドボール情報の発信の拡大を図る
2．協会広報システムを構築し、スムースな運営を図る
3．マスコミとの交流を拡大する
4．インターネット情報の充実・拡大を図る
5．北京オリンピックに向けたナショナルチームのPRを図る
6．協会事業の周知徹底を図る

【重点施策】

1．年間活動計画を作成し、実施する
2．「北京オリンピックへの道」広報チームをつくり活動する（HP・機関誌・プレスリリースー特別企画）
3．ホームページの内容の充実を図る（日本協会・日本リーグ）
4．マスコミとの交流を密にする
・記者発表・記者会見・プレスリリース・定期懇談会の実施、回数アップ
5．トップリーグ連携機構との連携を図り、共同で活動する
6．インターネットと機関誌の連携・整備を行い、内容の充実と効率のよい広報活動を行う

7．協会内組織の充実（担当者の複数化・役割分担）

《インターネット》

【基本方針】

1．日本協会より発信すべきハンドボール情報を、インターネットを通じて一般の愛好者へタイムリーに発信する
2．インターネットを活用した情報提供の充実を図るとともに、作業の効率化・スピードアップ・情報量の拡大を図る
3．新たな情報発信・円滑な運用のための体制づくりを確立する

【重点施策】

1．日本協会ホームページの充実
・試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実、試合結果速報用掲示板の運用
・新たな情報発信方法の検討と試行（携帯サイトの立ち上げと試行・運用）
・日本協会の広報活動としてのホームページの活用
2．ホームページ等、円滑な運用のための体制づくり
・より良いシステムの検討、人材の補強等
3．外注化による作業効率化とマネジメントの検討

9．財務・会計に関する事業

【基本方針】

平成19年度は、最大事業としての北京オリンピックアジア予選を始め、国際大会が目白押しの年となる。ソウルオリンピック以来の日本ハンドボール界悲願達成のため事業展開をして行く。

収入面では、マーケティング委員会を中心として、強化資金と大会運営費捻出のため、協賛活動や支援獲得活動を展開する。支出面では、各事業部において事業収入を考慮に入れた展開を依頼し、支出抑制を図って行く。

長期的には財政基盤の安定化のため、固定的、継続的収入の確保方策とシステム作りに着手していく。また、各事業予算の再検討依頼と予算のあり方についても検討していく。

前年度より継続の北京オリンピック出場応援キャンペーンは、オリンピック予選に向けてのムード醸成を継続して行く。

【重点施策】

1．北京オリンピックアジア予選運営費の確保
2．マーケティング委員会を中心とした強化費の確保
3．北京オリンピック出場応援キャンペーンの推進

10．日本リーグに関する事業

【基本方針】

日本リーグを継続・発展させる
・地域と共に発展する日本リーグを目指す
・普及活動への連携支援を行う
・国際競技力向上への強化活動を全面的にバックアップする
・企業とパートナーシップを図る
・日本リーグ機構の中期ビジョンを具体化する

【重点施策】

1．新しいリーグの在り方を具体的に進める
・日本リーグのトータルシステム構築を行う（地域リーグ・都道府県リーグ）
・事業力のアップを図る（運営のプロ化）
・興業力のアップを図る（マーケティング力を高める、GMを定着させバラツキを是正する）
・財政の充実を図る（収益力をアップさせる）
・リーグの法人化を目指す（独立採算制）
2．メディア対策をさらに充実させる
3．観客動員を図り、各開催試合ごと独立採算制に取り組む（第3地域・公募制の導入）
4．GM研修会・開催地責任者研修会を開く
5．オーナー懇談会を開催する
6．ナショナル活動に強力バックアップを行う
7．NTS等強化活動に協力・支援する
8．審判技術の向上に取り組む
9．チャレンジリーグ等リーグ活性化活動の充実を図る
10．第33回大会の試合形式の検討を行う
11．トップリーグ連携機構の一員として活動し、連携を強化するとともにリーグの充実に役立てる
12．日本リーグの法人化に取り組む

11．総務に関する事業

【基本方針】

今後公益法人制度が改革され、一般財団法人と公益財団法人の2種類の財団法人に区別されて行く。日本ハンドボール協会では今後の発展を考えると公益性を有し、税制面で優遇措置を受けられる公益財団法人となっていくことが必要である。このためには、コンプライアンス、ガバナンス、ディスクロージャーが必要とされるが、この根幹を成す事務局の強化が必要とされる。

このことより、従来目指されている事務の効率化はもとより、人材・予算の確保が必要不可欠である。このため管理経費の充実と合理的な給与規程、就業規則などの改定を検討していく。

また、環境問題がスポーツ界でもクローズアップされており、大会などを通じて今後の環境保全の啓蒙活動を行っていく。

【重点施策】

1．公益財団法人への移行を見据えた事務機構の見直し
2．事務局経費の5％減を目指し効率的運用
3．平成19年度版協会要覧の発行
4．環境保全の啓蒙・実践活動
5．個人情報保護法の遵守

12．マーケティングに関する事業

【基本方針】

北京オリンピック出場を目指してプロジェクト21が発足された。このプロジェクトに積極的に協力体制を取りながら併せて企画、広報、競技、強化とも連携を図り、財源の確保とPR・広報など媒体露出を中心にハンドボール価値創造を作り上げていくこと、そしてハンドボール競技を含めてコンテンツをハンドボール協会がデータベースとして管理して、スポンサー、ファン、観客、競技者に販売していくことに邁進する。

【重点施策】

1．従来の協賛企業の再フォロー活動
2．プロジェクト21と共同活動による協賛企業の新規開拓推進
3．オリジナルグッズ、各種指導者向け等のDVD委託販売の推進
4．日本協会主催大会において、企画担当と各主管協会との連携を図りながらマーケティング活動の推進を行う
5．北京オリンピック出場の為の自主事業における資金確保（2250万円）とキャンペーン推進
6．スポンサーはじめ企業向け日本協会PRパンフレットの作成と手直し（協会方針、方向性、全日本、強化他）
7．マーケティング委員会と広報委員会の明確なる連動と協業により、ハンドボールコンテンツの確立へ向けてロードマップづくり

13．『がんばれ10万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

「がんばれハンドボール10万人会」におけるサポート会の拡大を推進する

日本協会と都道府県協会と連携し、サポート会の組織化を図り、合わせてサポート会へのサービスを拡大する

【重点施策】

1．都道府県協会サポート会を全国組織にし、本協会会員を10万人にする
2．会員への情報・サービスを拡大する
3．日本代表選手の家族、OB、OGのグランド会員入会を促進する

平成19年(2007年)度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	開催場所
4月	※第4回東アジアクラブ選手権（男・女）	4/3(火) － 4/6(金)	韓国・ソウル	日本リーグ男女優勝チーム
	第9回全日本ビーチハンドボール選手権大会	4/28(土)、29日(日)	千葉県・南房総市	富浦町原岡海岸
5月	※第2回女子アジアビーチハンドボール選手権	未定	チャイニーズタイペイ	
6月	※第2回男子アジアビーチハンドボール選手権	6/25(月) － 6/30(土)	イラン・バンダレアッバース	
7月	※第12回ヒロシマ国際大会（女子）	7/4(水) － 7/7(土)	日本・広島市	
	※第9回女子ジュニア（U-20）アジア選手権（WC2008予選）	7/1(日) － 7/7(土)	カザフスタン・アルマトイ	女子ジュニア（U-20）
	※ JAPAN CUP2007 TOYOTA GAMES（北京アジア予選リハーサル大会）（男子）	7/6(金) － 7/8(日)	日本・豊田市	豊田市総合体育館（スカイホール豊田）
	※ JAPAN CUP2007 KUMAMOTO GAMES（'97WC10周年記念大会）（男子）	7/11(水) － 7/16(月)	日本・熊本市他	熊本県立体育館、山鹿市体育館、天草市内体育館
	第27回全国クラブ選手権大会・西	7/13(金) － 15(日)	島根県・松江市	松江市総合体育館
	※第2回女子ユース（U-18）アジア選手権（WC2008予選）	7/23(月) － 7/31(火)	チャイニーズタイペイ	女子ユース（U-18）
	高松宮記念杯第48回全日本実業団選手権大会	7/25(水) － 7/29(日)	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館
	第27回全国クラブ選手権大会・東	7/27（金） － 7/29（日）予定	福島県・本宮町	本宮町総合体育館・本宮体育館・本宮高等学校体育館
	第15回全日本マスターズ大会	7/27（金） － 7/29(日)	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、県立氷見高校体育館、県立有磯高校体育館
	※第2回男子ユース（U-19）世界選手権	7/27（金） － 8/5(日)	バーレーン	日本不出場
	第20回全国小学生大会	7/29(日) － 7/31(火)	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学体育館、京都府立田辺高等学校体育館、精華町むきのきセンター
	高松宮記念杯第58回全日本高校選手権大会	7/29(日) － 8/3(金)	佐賀県・神埼市、小城市、川副町、白石町	神埼中央公園体育館、トヨタ紡織九州クレインアリーナ、小城市芦刈文化体育館、小城市三日月体育館、川副町立川副中学校体育館、白石町立有明中学校体育館
8月	NTSブロックトレーニング	7月上旬－9月上旬	各ブロック	
	第10回ハンドボール研究集会	8/6(月)、8/7(火)	岡山県・岡山市	岡山県立体育館（桃太郎アリーナ）
	西日本学生選手権大会	8/8(水) － 8/12(日)	愛知県・名古屋市	名東スポーツセンター、稲江スポーツセンター、東スポーツセンター、中村スポーツセンター
	東日本学生選手権大会	8/9(木) － 8/11(土)	宮城県・大和町、富谷町	大和町体育館、富谷町体育館
	第12回ジャパンオープントーナメント（男子）（第63回チャレンジ！おおいた国体リハーサル大会）	8/12(日) － 8/15(水)	大分県・大分市	県立総合体育館、大分市コンパルホール、県立大分舞鶴高等学校体育館、県立大分鶴崎高等学校体育館、大分市立王子中学校体育館
	第12回ジャパンオープントーナメント（女子）（第63回チャレンジ！おおいた国体リハーサル大会）	8/12(日) － 8/14(火)	大分県・大分市	大分市コンパルホール、県立大分舞鶴高等学校体育館、大分市立王子中学校体育館
	※第16回男子ジュニア（U-21）世界選手権	8/13(月) － 8/26(日)	マケドニア	日本不出場
	第34回全国高等専門学校選手権大会	8/18(土)、8/19(日) 予定	香川県・高松市	高松市総合体育館（予定）
	第36回全国中学校大会	8/21(火) － 8/23(木)	福島県・福島市	県営あづま総合体育館（2面）、福島国体記念体育館（2面）
	※第11回日韓スポーツ交流（派遣/男子）			男子U-16
	※第15回日韓中ジュニア交流大会	8/24(金) － 8/27(月)	中国・桂林市	男女高校生
	※ 2008北京オリンピック女子アジア予選	8/25(土) － 8/31(金)	カザフスタン・アルマトイ	
9月	※ 2008北京オリンピック男子アジア予選	9/1(土) － 9/10(月)	日本・豊田市	豊田市総合体育館（スカイホール豊田）
	第32回日本リーグ	9/22(土) － 2月	各地	
	※第11回日韓スポーツ交流（派遣/女子）			女子U-16
	※第11回日韓スポーツ交流（受入/女子）			女子U-16
10月	第62回国民体育大会	10/4(木) － 10/8(月)	秋田県・湯沢市、大仙市	湯沢総合体育館、県立湯沢高等学校体育館(A,B)、湯沢市立湯沢北中学校体育館、大仙市大曲体育館、県立大曲農業高等学校体育館
11月	高松宮記念杯男子50回女子43回全日本学生選手権	11/10(土) － 11/14(水)	北海道・函館市	函館市民体育館、函館大学体育館、函館大学付属有斗高等学校体育館
12月	※第18回女子世界選手権	12/2(日) － 12/16(日)	フランス	
	第59回全日本総合選手権大会	12/20(木) －12/24(月) 案	東京都	駒沢体育館、駒沢屋内球技場（案）
	第16回JOCジュニアオリンピックカップ	12/25(火) － 12/28(金)	大阪府・堺市	堺市家原大池体育館・金岡体育館他
	NTSセンタートレーニング			
1月	※アジア男子選手権（WC2009予選）			
2月	全日本実業団チャレンジ2008	2/8(金) － 2/10(日)	大分県	
	第32回日本リーグプレーオフ（女子）	2/16(土)、2/17(日) 予定	未定	
3月	第32回日本リーグプレーオフ（男子）	3/15(土)、3/16(日) 予定	東京都	駒沢体育館予定
	第3回春の全国中学生選手権大会	3/23(日) － 3/26(水)	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター、県立氷見高校体育館、県立有磯高校体育館
	第31回全国高校選抜大会	3/25(火) － 3/30(日)	徳島県・徳島市	徳島市立体育館など予定
	※ 2008北京オリンピックIHF予選（女子）	3/28(金) － 3/30(日)	未定	

※は国際大会

日本ハンドボールリーグ
前人未到！ 通算1,000得点 達成！

大崎電気・岩本真典選手



第31回日本ハンドボールリーグ・第7週第1日目（10/18）、埼玉で行われた男子1部・大崎電気vs豊田合成戦にて、大崎電気・岩本真典選手（36歳）が8得点をあげ、日本リーグ通算1,000得点を達成しました。

岩本真典（いわもと まさのり）選手メモ

◎1993年・第18回大会より日本リーグ登録（三陽商会所属）。36歳（06/10/04現在）
第18回大会～第25回大会まで三陽商会に所属。第26回大会より大崎電気へ移籍。

◎長身（198㎝）を活かし、新人時代から得点を量産する。

◎第28回大会・2004年（H.16年）1/11vsホンダ熊本戦にて、それまでの通算得点1位；813得点（元・中村荷役所属・呉龍基（オオ ヨンキ）選手）の記録を塗り替え、通算814得点の新記録を樹立。

◎第29回大会・2005年（H.17年）2/27vsホンダ熊本戦にて、通算900得点を達成。

◎現在、通算得点記録更新中。（2位は元・中村荷役所属の呉龍基選手・813点）

第31回大会・第7週（10/18）第1日目終了時点での通算得点、出場試合数

回大会	岩本真典		
	得点	試合数	アベレージ
18	67	12	5.583
19	105	14	7.500
20	105	14	7.500
21	25	14	1.786
22	71	14	5.071
23	91	14	6.500
24	73	14	5.214
25	87	14	6.214
26	75	14	5.357
27	76	21	3.619
28	48	14	3.429
29	81	18	4.500
30	67	18	3.722
31	29	9	3.222
合計	1000	204	4.902

※アベレージとは一試合当たりの平均得点数

岩本選手のコメント



まずは会社のみなさん、チーム関係者のみなさんに感謝したいと思います。

大崎に入って6年目、ここ2、3年やっと優勝を争えるチームになってきました。チームが勝つために全力を尽くしその結果として記録があるわけですが、優勝を争えるチームになってからの達成は大変嬉しく思います。

また会社のみなさんや家族が観戦していたホームでの試合で達成出来たことは良い思い出になりました。

もうひとつは通算得点を超える試合が、たまたま地元の熊本で、恩師の大宮先生から花束を頂いたときは少しは恩返しが出来たかなと思いました。

膝の怪我や所属チームの廃部、つらいこともたくさんありましたが、ここまでやってこれたのも良い環境を与えてくれている会社、チーム関係者のみなさんのおかげだと感じております。

また家族の支えがあったから長くプレー出来ていると思います。

これからもチームの勝利に貢献できるように努力し成長していきたいと思います。

■日本リーグ個人賞受賞歴■

- 第18回大会；新人賞
- 第20回大会；得点王（フィールドゴール＋7m得点）
- ベストセブン；第18回大会，20回大会，30回大会　計3回受賞



●大崎電気・岩本真典選手 2006年10月18日
●ソニーセミコンダクタ九州・田中美音子選手 2007年2月3日

ソニーセミコンダクタ九州・**田中美音子**選手



第31回日本ハンドボールリーグ・第13週（2月3日）、鹿児島で行われた女子1部、ソニーセミコンダクタ九州vs H C名古屋戦にて、ソニーセミコンダクタ九州・田中美音子選手（32歳）が11得点をあげ、日本リーグ通算1,000得点を達成しました。

田中美音子（たなか みねこ）選手メモ

◎ 1993年・第18回大会より日本リーグ登録（2部・大和銀行所属）。
第18回大会～第24回大会まで大和銀行に所属（その間、第18回・第21回は2部）。
第24回大会をもって大和銀行が廃部、それを機にその後2年間(2000年～2001年)、デンマーク1部のSKOVBAKKEN（スコウバッケン）に移籍。
2002年・第27回大会より日本リーグに復帰、ソニーセミコンダクタ九州に移籍。

◎第24回大会（1999年）10月2日vsムネカタ戦で、1試合最多得点記録（35点）を挙げた。

◎第28回大会・2003年10月18日vs H C名古屋戦にて、それまでの歴代通算得点1位；667得点（元・北国銀行所属・上出恵美子選手）の記録を塗り替え、通算671得点の新記録を樹立。

◎第30回大会・2006年2月26日vsオムロン戦にて、通算900得点を達成。

◎現在・第31回大会第13週2/3終了時点で、歴代通算得点記録更新中（2位は元・広島メイプルレッズ所属の呉成玉選手・677点）。
男女総合でも、岩本真典選手（大崎電気）に次ぐ2位の記録。

◎身長が161㎝と小柄ながらも、高い得点能力と抜群のセンスで、日本リーグで多数のタイトルを獲得している。



第31回大会・第12週（1/28）終了時点での通算得点、出場試合数

回大会	田中美音子		
	得点	試合数	アベレージ
18	2部	(10)	2部のため参考
19	121	14	8.643
20	126	14	9.000
21	2部	(12)	2部のため参考
22	106	14	7.571
23	98	14	7.000
24	125	11	11.364
25	デンマーク	――	――
26	デンマーク	――	――
27	77	15	5.133
28	101	15	6.733
29	67	12	5.583
30	92	12	7.667
31	89	12	7.417
合計	1002	133	7.534

注目

★日本リーグデビュー（第18回大会）以来、全試合出場、全試合で得点しています。（2部も含む）
★フィールド得点；766点（歴代1位）
7MT得点；215点（歴代2位）

田中選手のコメント（一問一答）

■リーグ初得点の思い出
覚えていません。2部がスタートだったので1部になったからといって何も考えてませんでした。その1試合1試合しか…。
また一年を通してリーグだけではないので…。印象度ゼロです。

■ 1000得点達成時の感想
特に思いも無く…。達成した時より、後の方が感動ですね。
いろんな意味で『感謝』ですかね。幸せな人生を歩んでるって感じです。

■今まででに最も強く印象が残る得点とは
ありません。

■今後の抱負
第31回日本リーグ優勝。

■後輩への一言
皆さんにも可能性があります。目標や夢を持って。楽しむ為に向上心を忘れずに…。

■日本リーグ個人賞受賞歴■

- ベストセブン；合計9回（第19回，20回，22回，23回，24回，27回，28回，29回，30回大会）
- 最優秀選手賞；合計2回（第24回，30回大会）
- 得点王（フィールド得点＋7MT）；合計4回（第19回，20回，24回，30回大会）
- フィールド得点賞；2回（第20回，24回大会）
- 7MT得点賞；3回（第19回，20回，24回大会）
- シュート率賞；1回（第30回大会）

第15回アジア競技大会 技術評

代表女子チーム３試合を対象に

ここではアジア競技大会組織委員会が発表した公式リザルトをもとに、全日本女子チームがアジア大会で経験した主要な3試合を振り返ってみたい。

（財）日本ハンドボール協会強化委員会　小笠原 一生

韓国戦（2006/12/10）

韓国は日本が北京五輪に出場するためにはどうしても越えなければならない相手である。結果的には日本は7点差で敗れてしまったが、なぜ敗れたかを把握することで次につながると思われる。

勝敗のひとつの要因として、日本の連続失点が挙げられる。前半12分からの4連続失点、前半20分、および24分過ぎには2回の3連続失点を許した。対して日本は連続して得点することができず、リズムを掴みきれない展開を強いられた。特に前半20分からの時間帯はベルト・バウワー監督が「試合の分かれ目」と振り返るように、勝敗を決する重要な時間帯であった。後半は、12対12と得点こそ同点であったが、韓国チームは前半のリードから終始リラックスし、落ち着いた試合を展開した。このような展開を避けるためには、連続失点を断ち切り、相手に傾きそうなリズムを引き寄せる力が必要であろう。

テクニカルミスの数は韓国の14回に対し、日本は15回と大きな差はない。よって、得点できる可能性のあった攻撃回数は両チームとも同等であったと考えられる。ここで日本と韓国を隔てたものは得点率の差であろう。総シュート数では日本が韓国を上回るものの（日本：59本　韓国：52本）、得点率は韓国に軍配が上がった。韓国はディスタンスシュートによる9得点もさることながら、サイド、速攻と各ポジションでまんべんなく得点し、さらに精度が高かった。

また、安定したGKの活躍も攻撃の成功に貢献している。現韓国チームにはMOON選手、LEE選手の2人のGKを擁している。2人ともが主軸になれるほどの実力を持っており、それぞれ、59%、44%という高いシュート阻止率を示した。中でもディスタンスシュートに対する阻止率は60%を越えており、シュート阻止から速攻へのすばやい攻守の切り替えの起点となっていた。

カザフスタン戦（2006/12/11）

カザフスタンとは2003年アテネ五輪予選（神戸）、2006年アジア選手権（中国：広州）と拮抗したゲームが続いている。大型の選手を擁しており、体格的に日本とはミスマッチであるが、ハンドボールが独特であるため、周到な準備をすることで日本でも十分対等に戦うことが出来る。試合では、広州のアジア選手権で対戦したときのデータをもとに、マークしていた19番YAKOVLEVA選手の得点を抑えることには成功した。しかし、アジア選手権に出場していなかった2番AJIDERSKAYA選手への対応ができず大量の得点を許してしまった。ベルト・バウワー監督のディフェンスにおけるコンセプトとして“タックル：積極的に接触する”が挙げられるが、ディフェンスの届かないところからディスタンスシュートに対する守りは今後の課題であろう。この試合は32対28とややハイスコアなゲームとなった。統計データを参照すると、得点率ではカザフスタン58%、日本49%であった。また、GKシュート阻止率は、それぞれ33%、日本29%であり、それほど大きな差はなかった。しかし、ハイテンポな試合展開の場合、この小さな確率の差が勝敗に影響したことが予想される。

この試合では、早船選手が9得点、金城選手が5得点と、2人の選手で全得点の半分を獲得した。体格的に上回るカザフスタンディフェンスに対し、バックコートの選手が多くのシュートを決めることが出来たということは、日本チームの攻撃に幅が出てきたということを示すものであると考えられる。しかし、このような点の取り合いの展開の中では、一部の選手に得点が集中することは、必ずしも安定したゲーム運びにつながらない。他の選手が速攻などの確率の高いシュートで得点を重ねることで、さらに安定したゲーム運びが出来るようになるものと思われる。

中国戦（2006/12/13　3位決定戦）

中国戦を勝利したことは日本にとって大きな収穫であった。韓国戦での課題であった、相手の連続得点を断ち切る試合展開を徹底し、終始リズムを握ったゲームが出来た。単調な中国の攻撃をしっかりと認識した上で試合に臨んだのでディフェンスが安定し、さらにエースである10番WANG選手の動きのクセを事前にチェックしたので、ほぼ完全に封じることが出来た。統計データから、飛田、田中両GKが共にシュート阻止率40%をマークしており、守りの安定にはGKの力も大きく貢献したことがわかる。

この試合の詳細に関しては、機関誌1・2月合併号8ページの戦評を御参照いただきたい。GK田中が魅せたペナルティー阻止のために行ったチャレンジングなプレイなど、数値には現れないが日本の勝利に貢献した要素は多い。また、今大会中の課題であった「相手の連続得点を断ち切る」プレイが、東濱、金城の両バックコードプレイヤーによって成されたことも大きい。

今回のアジア競技大会において日本チームは5試合を戦い、それぞれの試合で課題が生じた。しかし、最終戦である中国戦で、それらの課題の多くを修正できたものと思われる。課題を次の大会に持ち越すことなく修正できたという点で、本アジア大会は日本チームにとって大きな収穫を得るものとなった。

まとめ

ベルト・バウワー監督が指摘するように、どの試合にもエアポケットの時間帯があった。北京五輪の予選までにさらにチームが成熟し、これらの課題を克服することが望まれる。なお、アジア競技大会の公式ウェブサイトから詳細な公式記録がPDFデータで閲覧できるので、是非ご覧いただきたい。

http://www.doha-2006.com/gis/menuroot/pdfservice/InfoPDF.aspx

	G/S	%	6m	Wing	9m	7m	FB	BT	TF	GK%
JPN	21/59	36	8/25	2/3	4/21	3/5	2/3	2/2	15	33
KOR	28/52	54	4/6	5/8	9/24	1/3	6/8	3/3	14	50
JPN	28/57	49	4/9	5/10	9/26	5/5	—	5/7	19	24
KAZ	32/55	58	7/9	3/9	12/26	6/7	2/2	2/2	13	33
JPN	25/51	49	4/6	2/2	6/26	5/6	3/4	5/7	20	41
CHN	22/42	52	2/3	1/5	3/17	7/8	4/4	5/5	22	24

G/S　得点数／シュート数
%　得点率
6m　ミドルシュート
Wing　サイドシュート
9m　ディスタンスシュート
7m　7mスロー
FB　速攻
BT　突破
TF　テクニカルミス
GK%　GKシュート阻止率

～親切、丁寧な「戦況報告」に～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

31回目の日本リーグが終わった。前回の記念大会に続き、今回もプレーオフ会場の駒沢体育館が盛況だったことは、関係者の努力の証しである。

さて、日本リーグの会場でマスコミに配布されるものにランニングスコアに加え、戦況報告がある。言い換えれば、試合の戦評と言えるもので、試合経過とともに記念のゴールや特記事項を織り交ぜたものである。バレーボールのＶリーグや高校サッカー大会など他の競技でも採用されているが、なかなか親切なメディア対応策ではないかと思う。

この戦況報告やランニングスコアは、日本リーグのホームページで見ることが出来るのでご存じのファンも多いと思う。また、試合結果は携帯電話でも確認できるなど、以前とは違って「情報の共有化」は進化を続けている。ファンにとってこれほどありがたいことはない。

ところで「戦況報告」には、大会名をはじめ会場やスコア、通算成績などに加え、見出し、特記事項を書くスペースがある。ちょっと気になるのが、見出しと特記事項の関連である。

見出しのスペースの横に「特記事項を要約した見出しを」と注釈がある。見出しとは「広辞苑」によると「選び出すこと。新聞・雑誌などの記事の標題」とある。特記事項の中からポイントを短く表現したのが「標題」であるはずだ。

ホームページを見ると、そうなっていないものが時に見受けられる。例を挙げると「大同、全勝をキープ」「大崎、12勝目」「新戦力も活躍」「守護神、再び…」などといった見出しが並ぶ。ところが、本文にはそうした記述はどこにも見当たらない。「○勝」はスコアや順位表で確認は出来るが（でも、本来は本文にあるべき）「新戦力」や「守護神」となれば、そのチームに精通しているか、熱心なファンでない限り、一般の多くのファンには理解しにくいのではなかろうか。

特記事項に「○○ら新戦力」とひとこと加えることで理解が深まる。それが「要約」というものだろうと思うし、ファンへの親切と言うものではないかと思う。

また、記念ゴールなどを記す場合、歴代○人目とか現役○人目といった注釈がついていれば、もっと身近に感じられるはずだ。せっかくのサービスだけに、もっとファンに「親切、丁寧に」を心掛けたいものである。いかがでしょうか。

NTS2007報告

NTSコーディネーター　田中　茂

平成18年度NTSの全事業は、前回までにご報告申し上げましたとおり、お陰様で無事終了いたしました。あらためて、皆様のご理解と、ご協力に感謝申し上げます。

さて、平成19年度も４月8日にNTS運営委員会を開催する事となっております。既にご承知のことと思いますが、NTS予算の多くは「スポーツ振興くじ」の支援によるものです。数年来、totoの売り上げが厳しい状況から予算縮小を余儀なくされ、自助努力への変革を進めております。したがって、予算の有効利用を常日頃から意識いたしております。

予算だけではなく、他にも様々な課題があるかと思いますが、皆様方のご意見を頂きながら様々な対策、対応を今後も講じて行かなければと思っております。

日本の国際競技力向上のためには、ジュニア層の発掘、育成が急務であり、その結果として、常時オリンピック出場を果たすためには継続して強化を行うことが重要な事となってまいります。また選手だけではなく、ジュニア層を指導するスタッフを始め強化に関わるスタッフの育成、審判委員会とのタイアップなどハンドボール界全体で取り組み、継続していかなければならない事業だと考えております。

平成19年度第一回NTS運営委員会後、今年度のNTS運営方針が確認され、決定いたします。NTSの重要性を十分ご理解いただき、更なるご協力を頂ければと思います。

最後になりましたが、平成19年度も宜しくお願い致します。







平成 18 年 3 月 19 日、渋谷:ホテルサープ会議室において、第 4 回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。研究会の発表について、本誌で連載報告する運びとなりました。今月はベルト・バウワー監督、藤本元コーチ（日本ハンドボール協会）の発表内容「女子日本代表チームのコンセプト」を報告させていただきます。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

女子日本代表チームのコンセプト

ベルト・バウワー、藤本　元（日本ハンドボール協会）

キーワード：ハンドボール、代表チーム、チーム戦術

【05 年世界選手権結果】

	順位	RUS	NED	CRO	CHN	JPN	URU
1	ロシア		○ 34 22	○ 29 28	○ 36 20	○ 34 24	○ 43 16
2	オランダ	● 22 34		○ 29 27	○ 30 2	○ 35 27	○ 29 8
3	クロアチア	● 28 29	● 27 29		○ 35 29	○ 31 30	○ 44 9
4	中　国	● 20 36	● 27 30	● 29 35		○ 33 27	○ 45 18
5	日　本	● 24 34	● 27 35	● 30 31	● 27 33		○ 44 22
6	ウルグアイ	● 16 43	● 8 29	● 9 44	● 18 45	● 22 44	

図 1）予選ラウンド星取表

開催年	開催国	予選ラウンド	日本チーム		メインラウンド	順位
		平均得失点	平均得点	平均失点	平均得失点	24 カ国中
1997	ドイツ	2 5	2 1	2 6	2 6	1 7 位
1999	ノルウェー・デンマーク	2 5	2 4	2 5	2 3	1 7 位
2001	イタリア	2 6	2 3	3 0	2 6	2 0 位
2003	クロアチア	2 7	2 7	3 1	2 8	1 6 位
2005	ロシア	2 9	3 0	3 2	2 9	1 8 位

図 2）日本チームの世界選手権史

・得点の増加は世界の傾向＋ 3.2 点（4 年間で）
・日本も得点は増加＋ 6.6 点（4 年間で）

【監督として方針】

・テンポのあるハンドボール
・60 分間メンバー全員で、高いクオリティーを保ちながら、相手にプレッシャーをかけ続ける
・日本人のスピードと素早さを、全ての局面で活用

【局面構造とその考え方】

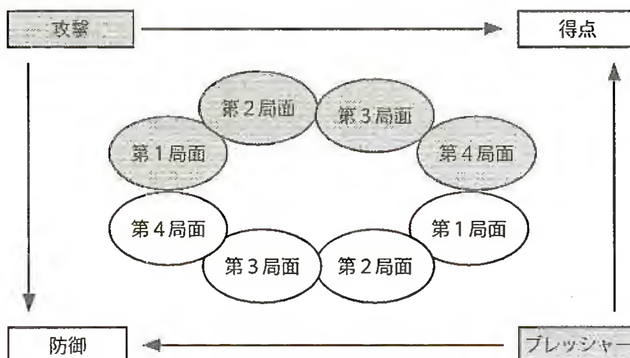


図 3）局面構造

〈攻撃局面〉
・第 1 局面
　―素早いスタートから相手コートまでのボール運び

・第２局面
―組織的なきっかけの開始
・第３局面
―パラレルの攻撃でのチャンスを探しながらの揺さぶり
・第４局面
―第３局面でチャンスがなければ、セットのオフェンス
―ダイナミックなきっかけ→パラレルの攻撃

【05 世界選手権後の監督報告】

・日本チームはロシア以外のどのチームとも十分戦うことができる。
・クロアチア・中国戦の前半はよかった。後半で私たちがいつも犯してしまうミスによって後退して行った。

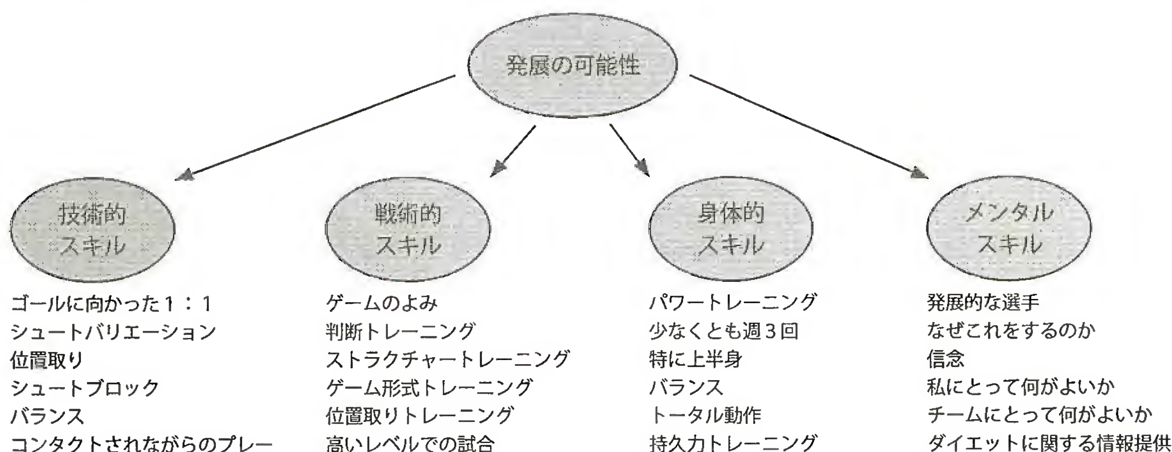
日本 ●27（18-14・9-19）33○ 中国
日本 ●30（14-11・16-20）31○ クロアチア

《原因と課題》
―ストラクチャー(戦術の骨組み)から外れる。ミスが多発する。
―現在の国際レベルの試合では10分間、ストラクチャーをはずれ得点が止まることは命取りである。
―戦術的アイデアの不足（他の選手とのコンビ）経験
―60分間戦いきるパワーと経験の不足
―国際レベルでプレーできる選手の不足
―９ｍからのシュートパワーの不足
―コンタクトされたときの問題（シュート・１対１）
―自分たちよりも高いランキングのチームに対する恐れ

・６－０ＤＦについて
―よい結果であった（強いポストに対するコンパクトなDF）
―時々少しディフェンシブ過ぎたが、アグレッシブな６：０DFに発展できる。
―日本の選手にとってDFでのコンタクトは難しいようだ。
―私たちはシュートブロックを学ばなくてはならない。
―ゴールキーパーとの共同作業がより必要。
―バリエーション豊かなシュートに対しての慣れ。

【ベルト・バウワー氏について】

～女子のナショナルチーム・初の外国籍の監督～
〈国籍〉
オランダ
〈生年月日〉
1952年1月23日生まれの55歳
〈選手歴〉
オランダ代表で140試合
ブンデスリーグなど欧州最高峰のリーグで活躍
国内リーグでも最優秀選手を受賞
〈指導歴〉
オランダジッタルディアで２度国内チャンピオン
オランダナショナルチーム、ナショナルジュニアチームなどでコーチを歴任
デンマークトップリーグのGOGにコーチ
ディベロップメントマネージャー（コーチ・選手の育成）
ヨーロッパハンドボール連盟コーチ育成委員会指導者



ハンドボール競技におけるアンチ・ドーピング：懲戒処分の事例から

IHF/AHF/M/C委員　西山 逸成

1．はじめに；

2003年3月に世界スポーツ界を統一した世界アンチ・ドーピング機構（WADA — World Anti Doping Association）の設定により「世界アンチ・ドーピング規程」が採択された。

この結果、従来それぞれのアンチ・ドーピング機関であったIOC（国際オリンピック委員会）、IPC（国際パラリンピック委員会）、IF（国際競技連盟）等におけるアンチ・ドーピング活動の基本的事項は世界で統一されることになった。

ハンドボール競技としてもTHE WORLD ANTI DOPING CODEの基本理念に基づき「IHF規程— 2005年6月」「AHF規程— 2005年12月」「日本アンチ・ドーピング規程— 2006年3月」がそれぞれ規定され、アンチ・ドーピング活動が規制されている。

2．日本におけるドーピング・コントロールの実施状況；

日本ハンドボール界におけるアンチ・ドーピング活動としては国際大会で1997年以降5大会52名、国内大会で1999年以降15大会88名の合計140名の男女選手に対しドーピング・コントロールが実施された。（付表）

3．日本における違反事例；感冒薬服用による違反

1）違反の主要経緯：違反者として懲戒処分の事例は国際・国内大会を含めて31大会男女選手107名の内、1名（1997年5月、熊本男子世界選手権大会予選リーグ、KSA男子、検出薬物 “興奮剤—エフェドリン”）であった。

この選手に対する当時のIHF医事委員会（筆者は当時AHF/DCOとしてドーピング・コントロール班に参画）と当該チーム代表者との書面裁定により、違反規則が適用され「競技停止30日」の裁定であった。書面裁定の主要経緯は次のとおりである。

Q1；選手に対し、興奮目的に故意に服用させたのか。

A1；感冒症状の医療的処置としてのみ服用させた。

Q2；当該チームの希望国・希望検査所での再検査を要求するか。

A2；再検査の要求はしない。故意ではないので最短の競技停止期間とされたい。

2）現在のWADA・IHF・AHFのアンチ・ドーピング規程と選手・チームの権利：

規程区分	規程主要内容	選手・チーム側の権利
WADA規程では 「指定物質—エフェドリン」 ＊市販医薬品故に不注意により禁止興奮剤を含んだ風邪薬を服用したことから陽性になった選手の制裁については柔軟な裁量が認められている。	7条（結果管理—指定物質） ①分析結果の確認（初期確認） 治療目的使用申請未提出…競技者に速報 ②暫定的資格停止処分（選手又はチーム） ③全違反者に対し聴聞会の設定 10条（資格剥奪—禁止物質・禁止方法） ①1回目……2年間の資格剥奪 ②2回目……一生涯の資格剥奪 10条—3（指定物質） ①1回目の違反＝警告、戒告処分；資格剥奪期間を0日～1年間 ②2回目の違反＝2年間の資格剥奪 ③3回目の違反＝一生涯の資格剥奪	次の何れかを決心する。 ①競技者が再検査を要求か 放棄するかを決定する。 ②出場一時停止 ③弁護人経費…自己負担 通訳者経費…聴聞機関負担 ①選手・チームの制裁処置の免除・軽減の立証機会を持つ権利。
IHF　規程では	8条（結果の管理） ①結果陽性時（A検体）；チーム団長に通告 ②B検体結果通知30日後廃棄処分（8－2） ③B検体分析要求ない時；90日後廃棄処分 9条（制裁処置） 選手本人の競技結果、自動的に失効。 9条—2（指定物質） 指定物質が治療目的の使用を選手が立証可能時； ①1回目の違反＝警告、戒告処分 資格剥奪期間を0日～1年間 ②2回目の違反＝2年間の資格剥奪 ③3回目の違反＝一生涯の資格剥奪	①当該選手一時的出場停止。 ②追加検査の要求権利は12時間以内。 ③結果陽性時； 聴聞会の要求権利 経費：自己負担 （弁護士・NF—当該国協会）
AHF　規程では	1条—1（規則違反） ①過失・故意・不注意の別なく規則違反 ②禁止物質の保持・使用も選手責任 ③検出量の多少は関係ない。 7条（検体A陽性時）＊検体Bは再検査用 ①当該国の協会（NF）に連絡する。 ②一次的懲戒処置…一時的出場停止	当該国は再検査要求（検体B） 12時間以内の要求権利がある。 （検査は48時間以内） ＊競技外検査48時間以内）

4．IHF におけるアンチ・ドーピングに対する規則違反例（IHF ニュース）から；

裁定組織	選手名	物質	制裁内容
①イタリアハンドボール連盟 上訴規律委員会	Mr. マッシモ・タンピエリ	カンナビス（大麻）	5 ヶ月間出場停止 2006 年 1/16（出場停止警告日）～ 6/15
② 同上	Mr. アンジェロ・ジャンネッタ	カンナビス（大麻）	5 ヶ月間出場停止 2006 年 1/16（出場停止警告日）～ 6/15
③ 同上	Mr. カルロ・マンノーリ	カンナビス（大麻）	5 ヶ月間出場停止 2006 年 1/16（出場停止警告日）＋～ 6/15
④ 同上	Mr. フィリップ・ストリナー	カンナビス（大麻）	10 ヶ月間出場停止 2006 年 1/24 ～ 11/23
⑤フランスハンドボール連盟規律委員会・アンチドーピング委員会	Mr. ピエール・イヴ・ラゴ	カンナビス（大麻）	6 ヶ月間出場停止 2006 年 2/25 ～ 8/27 5 年間の試行期間 2006 年 8/28 ～ 2011 年 8/27
⑥チェコハンドボール連盟規律委員会	Mr. マルティン・ブアスコ	カンナビス（大麻）	3 ヶ月間出場停止 2006 年 3/16 ～ 6/15

付表：日本国内における大会時のアンチ・ドーピング活動（ドーピングコントロール実施人員数）

大会	男子検体数		女子検体数		総検体数	
	実施検体	違反有無	実施検体	違反有無	実施検体	違反有無
男子世界選手権大会 1997/5 月 熊本	1 2	有 1	0	0	1 2	有 1
第 3 回東アジア大会 2001/5 月 大阪	6	0	6	0	1 2	0
アテネオリンピックアジア予選 2003/9 月 神戸	8	0	8	0	1 6	0
第 10 回女子西アジア選手権大会 2004/7 月 広島	0	0	6	0	6	0
第 10 回男子 Jr アジア選手権大会 2006/8 月 広島	6	0	0	0	6	0
JHL プレーオフ 1999	2	0	2	0	4	0
〃 2000	2	0	2	0	4	0
〃 2001	2	0	2	0	4	0
〃 2002	2	0	2	0	4	0
〃 2003	4	0	4	0	8	0
〃 2004	2	0	4	0	6	0
〃 2005	2	0	3	0	5	0
〃 2006	2	0	2	0	4	0
全日本総合 2002	4	0	4	0	8	0
2003	2	0	3	0	5	0
2004	2	0	4	0	6	0
2005	3	0	3	0	6	0
2006	4	0	4	0	8	0
国民体育大会 2006	4	0	4	0	8	0
全日本学生 2006	4	0	4	0	8	0
（小 計）	7 3	有 1	6 7	0	140	有 1

検体数の概要（1997 ～ 2006）；

国際大会・・・５大会・・・ ５２名
国内大会・・１５大会・・・ ８８名
合 計・・・・・・・・・１４０名
規則違反者・・・・・・・・・ １名

2006ドーハ　スペシャルインタビュー

赤尾 和彦

全日本男子ハンドボールチーム・トレーナー、日本体育大学出身、トレーナーズ・フォー・アスリート所属



昨年5月より強化合宿を重ね、11月ジャパンカップを経て、そのままクロアチア遠征で最終調整を行い12月に開催されたドーハに乗り込んだ。日々のハードスケジュールの中、選手に心おきなく試合に挑んでもらう。その裏には選手を支え続ける人たちの存在があった。赤尾和彦氏がハンドボール全日本男子チームのトレーナーとして8年間国内外の合宿、遠征に帯同し、ベストコンディションに向けて取り組んできた。今回、赤尾トレーナーにはドーハを振り返っていただく。（2007年2月に取材）

ドーハ・アジア大会における全日本男子ハンドボールチームのケア＆コンディショニング

『ドーハアジア大会に向けた準備』

●必要な治療器をすべて用意

——ドーハに向けてどのような準備をされたのでしょうか？

赤尾　自身4度目のアジア大会でしたが、開催国によって食文化や気候等、生活環境が異なり選手の体調管理の為には現地の情報を色々と調べましたね。ケガはしていないけど食当りで試合に出れない事になったら一大事ですからね。近年ではドーピング検査等のチェックが非常に厳しく、服用できる薬もかなり制限されます。用意した市販薬（整腸剤、頭痛など）1つずつ調べ細心の注意をはらいました。

——コンディショニングづくりに関してはどんな取り組みをされましたか？

赤尾　私は鍼灸師でもあるので針や消毒液、サプリメントやテーピングなども滞在日数から逆算して必要な量を大きなダンボール2個分用意しました。また、（財）日本ハンドボール協会とパートナーシップを結んでいる伊藤超短波㈱に超音波治療器『ＵＳ－750』2台、ハイボルテージなど7種類の治療刺激モード搭載の総合電流刺激装置『ＥＳ－520』を2台、携帯型微弱電流治療器『トリオ300』を4台のご協力要請をさせていただきました。高性能で高価な医療機器ですので数百万円ものサポートを頂いた事になります。

——代表選手16人に対してトレーナー1人。とても大変だったことは？

赤尾　8年間ナショナルトレーナーをしておりますが、今回は多くの治療器を用意できたのが非常に役に立ちましたね。今までは選手もトレーナールームに行きづらい面もあったと思います。何故かと言うと私1人で診てあげられる人数が物理的にも限られている事が選手もわかっているからです。精々一度に2人というところでしょう。選手達は忙しそうな私に気を使って順番に入れ替わり立ち代りといった具合です。それが今回治療器のサポートがあったため非常に助かりました。

『ドーハまでのコンディショニング』

●練習中肉離れ、打撲、捻挫で車椅子。全治数週間の診断でも数日間で復帰した選手も！?

——ドーハまでのケガの発生状況を教えてください。

赤尾　永島選手（大崎電気）が慢性的な腓骨筋の疲労性疼痛と連動しておこる足関節の可動域制限と疼痛が悪化。門山選手（トヨタ車体）は海外遠征直前、日本リーグの試合でシンスプリントを相手選手の足が強打し退場、車椅子で帰宅。また豊田選手（大崎電気）も海外遠征直前の日本リーグの試合で、いわゆるモモカンによる疼痛と若干の歩行障害がありました。日本リーグに続けて休み無くクロアチア遠征、そしてドーハ入り、41日間の海外遠征。万全なコンディショニングではなかったが、アジア大会までに調整、回復させることが課題となりました。

——ドーハに入ってからは？

赤尾　大きなケガは試合中、キャプテン中川選手（大崎電気）が2回り、3回りは体格の大きい相手選手の反則で、肘が顔面を強打し、前歯を数本折られてしまいました。皮膚も裂け出血も酷かったので、そのまま病院へ直行し皮膚を縫う処置となりましたが、いくら試合とはいえあの時の反則は本当に許せませんでした。

——ところで永島選手、豊田選手、門山選手のケガは？

赤尾　永島選手は慢性的な関節、筋肉の疲労性疼痛に悩んでいましたが、微弱電流療法を取入れてからは全く違和感なく練習、試合に参加できる所まで回復しました。門山選手は元々痛めていたシンスプリントをさらに傷めつけてしまう結果に。試合の帰り空港でも車椅子だった様子を見た時、正直困ったなと思いました。私はそこでジャパン合宿で門山選手に予め渡しておいた微弱電流治療器があった為、直ぐ治療するよう勧めました。すでに永島選手や豊田選手のケガに取入れて効果を実感していたので安心して勧める事ができました。翌日には痛みが抜け、翌々日のジャパン合宿にはテーピングは勿論していましたが、参加していたのですから。その即効

性には私自身一番驚きましたね。
豊田　モモカンをされた時の痛みが和らぐし治りも早いのを実感しました。移動中、寝ている時間もずっと微弱電流治療ができるのも非常にいいですね。海外遠征では特に環境が変わるせいか疲労感がひどく、そんな時、僕の場合腰を中心に微弱電流を流すと個人的に体のバランスが良くなり、翌日にだるさが残らないのは驚きですね。特に前日にハードなトレーニングをした次の日に良く実感できますね。

ドーハ大会ではＵＡＥ戦でモモカンを受けた直後、痛くて屈伸もできなかったのですが試合直後、ハイボルテージ電流療法と微弱電流治療と超音波治療のコンビネーション治療（同時治療法）とアイシングを交互に何度か行った結果、翌日の練習にはテーピングすれば問題なく参加できましたから自分でも驚きましたよ。
永島　今では微弱電流治療をやらないと逆に痛みがでてしまうのでもう手ばなせない状態ですよ。
赤尾　電流療法と言ってもピリピリする電気とは違います。実際に人間の体には極微弱な電気が流れていて壊れた組織を修復する過程でその微弱な生体電気が大きく係っている事は良く知られていますが、いわゆるその生体電流と同レベルの微弱電気を器械的に流す治療法の為何も感じません。ですから何時間治療していても安全ですし、自然治癒力を最大限に発揮できるのだと思いますね。今回、選手もコンディショニングの幅が広がり、より安心して試合に臨む事ができるようになった事でしょう。

『ケガの予防と心のケア』

●日頃のネットワークが生かされた

――ケガの予防に向けて何か取り組まれていたことはありましたか？
赤尾　事前にできる事として練習前後の入念なストレッチは必ずするよう良く話をしています。またケガの予防として所属チームでのフィットネス強化、ナショナル合宿、試合ではそれを維持する事の必要性も併せて話しています。勿論、練習後のマッサージや問題がある場合、最近では物理療法も積極的に取入れています。超音波療法、ハイボルテージ療法、微弱電流との併用アイシング等も積極的に取入れました。治療法やテーピング方法については各所属チーム先で普段行っている方法や手順、機器の設定などの情報交換などもして選手の納得の行く方法をとるように心がけています。
――選手村では選手と一緒に生活されたそうですね。
赤尾　今回治療器のサポートもあり、選手の治療待ち時間等のルーズな時間を余す事が無くなった為、選手がトレーナールームに集まりだし、言わば憩いの場となったのです。いつの間にか読書やＴＶ、音楽を聴きながらリラックスしたムードでケアを受けられるようになり、そこでは選手が雑談している言葉や顔をさり気なくうかがう事もでき、選手の精神的な状態も踏まえトータル的な前回とは違うより良いコンディショニングを行う事ができました。特に海外遠征では選手も部屋に閉じこもりがちだが、治療器のおかげで良い環境作りができた事が大きい。選手にも私個人的にも良かったと思います。
――北京オリンピックに向けて
赤尾　今後ナショナルではフィジカル、フィットネス強化、そしてパフォーマンス向上とケガの予防に重きを向け計画的にプログラムを作る事が課題です。シドニー、アテネ時の歴代日本代表選手と比べるとまだまだフィットネスは伸びる余地がある。北京オリンピックへ向け監督と相談した結果ナショナル合宿でもスケジュールにフィットネスを計画的に入れて行く方針。ドーハでは惜しくもメダルを逃したが、北京オリンピック出場に向け一歩ずつ前進して行きたい。



練習前後にもトリオ 3000 で微弱電流利用法を取り入れている永島選手。コレがないと不安なんですよ〜。

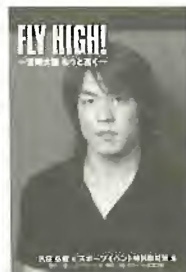

僕個人的には電気と超音波のコンビネーション治療は絶賛！　とにかく治りが早いのでお勧めですね。他の選手にも勧めていますよ。今後はケガの予防の一つとしてジュニアレベルから使うべき。気合で治す時代はなくなったと思いますね。（豊田選手）





スポーツイベント・ハンドボールよりお知らせ

FLY HIGH!



ハンドボールの革命児
FLY HIGH!
―宮崎大輔 もっと高く―
久保 弘毅 & スポーツイベント特別取材班 著
四六版・224ページ
1,500円（税込・送料160円別）
発行・（株）スポーツイベント
発売・（株）グローバル教育出版

●電話、FAX、メール、スポーツイベントホームページにてご注文ください。振替用紙をお送りします。

郵便局にて直接代金を振り込んでいただいた方には、送料（160円）をサービスさせていただきます。
郵便振替口座番号…00140-5-11951
直接振り込んでいただくとお手元に早く本が届きます

（株）スポーツイベント
TEL 03－3253－5941
FAX 03－3253－5948
E－mail handball@sportsevent.jp
URL http://www.sportsevent.jp

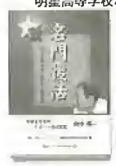
ハンドボール名将列伝「関東三兄弟シリーズ」

「一秒一生」
ゼロからの日本一



横浜商工高校ハンドボール監督
渡辺靖弘の挑戦
B6版・240ページ
2,500円（税・送料込み）
発行・（株）スポーツイベント
発売・（株）グローバル教育出版

「名門復活」
ハンドボールにかけた熱き魂
明星高等学校ハンドボール前監督



鈴木 亮一
B6版・224ページ
2,500円（税・送料込み）
発行・（株）スポーツイベント
発売・（株）グローバル教育出版

「気は技を制す」
ハンドボール――我が人生の道しるべ
群馬県立富岡高校前校長
全国高体連ハンドボール部前部長



宇佐美幸彦
B6版・224ページ
2,500円（税・送料込み）
発行・（株）スポーツイベント
発売・（株）グローバル教育出版

直販のみ **お得なセット価格**
3冊セット 7,500円→**6,000**円
2冊セット 5,000円→**4,500**円
（組み合わせ自由） 直販のみ

《お申し込み方法》
電話、FAXにてご連絡下さい。振替用紙をお送りします。直接郵便局で振り込まれる場合は、「郵便振替 00140－5－11951」までお振込みください。商品の到着が早くなります。（2枚目の通信欄に「気は技を制す希望」「名将列伝3冊セット希望」「○○と△△の2冊セット希望」などとお書きください）

トレーニング読本



ハンドボール練習法250
ドイツハンドボール協会技術委員会編
土井秀和・水上一・笹倉清則共訳
A5版・312ページ
2,500円（税・送料込み）

●ハンドボールの本場、王国として名高いドイツで生まれた必見の一冊。実戦に役立つハンドボール練習法を250パターン以上も紹介。



勝利へのパワートレーニング
山崎正利・鈴木正之著
A5版・232ページ
2,600円（税・送料込み）

●障害を予防するための筋力アップを含めてハンドボーラーのためのパワーアップトレーニングを、写真やイラスト、図を多く取り入れて分かりやすく解説。

直販のみ
2冊セット価格 5,100円のところ→**4,500**円

テクニカルハンドブック



日本初のGK技術書

ゴールの鉄人 山崎正利著
●初めて刊行されたゴールキーパーだけのテクニックを論じた書。すべてのシュートに対する基本動作から駆け引きに至るまで、豊富な連続写真を使って分かりやすく解説。
B6版・120ページ **1,300**円（税・送料込み）



「パストレーニング145」

パスの達人 山崎正利・瀧本明弘共著
●基本的なパス・トレーニングに始まり、セットオフェンス、速攻のトレーニングへと展開。毎日のトレーニングがマンネリ化しがちなチームにとって、まさに福音の書。
B6版・160ページ **1,500**円（税・送料込み）

ご注意 トレーニング読本シリーズ、テクニカル・ハンドブックシリーズとも書店ではお求めになれません。直接当社へご注文ください。

スポーツイベントのハンドボール技術ビデオシリーズ

金メダルへのトレーニング



●韓国ナショナルチームを率いた鄭亨均氏が、そのトレーニングのすべてをあますことなく公開する
全10巻 84,000円
各巻 8,400円

世界のスーパープレー



●スタッフを本場ドイツに派遣、ビデオで「世界のスーパープレー」を独占特撮！
全6巻 52,500円
各巻 8,925円

高野亮のシステムハンドボール



●噂のシステム、独特のコンビプレーの作り方などを初公開
全8巻 75,600円
各巻 9,450円

「これでチームが強くなる」ビデオ版



●240種類の目的別トレーニングを一挙に公開
全6巻 56,700円
各巻 9,450円

これでチームが強くなるII 新王国 沖縄の勝利学



●小学生から成人まで、幅広い層の全国大会で日本一を量産し続ける沖縄の強さ、魅力に迫ります
全6巻 50,400円
各巻 8,400円

●全ビデオシリーズは1本から承ります（送料は何本でも500円）。●現金書留、郵便振替、銀行振込による前金制です。●代引き発送（納品時に料金と引き換え）が最も早くお手元にお届けできます（計3巻以下の代引き発送は別途500円を申し受けます）。●学校予算の場合は先納も可！ご相談ください。●ビデオは直販のみとなります。

お申し込み方法

郵便振替によるお申し込み
郵便局備え付けの振替用紙をご利用下さい。商品のお届けが早くなります。
各記入欄に以下の通りご記入下さい。

口座番号	**00140-5-11951**
加入者名	**（株）スポーツイベント**
通信欄	**ご希望商品名** （例：FLY HIGH-1冊-1,500円・ハンドボール1年分-9,600円）
金額	**ご希望商品の合計金額** （例：11,100円）
払込人住所氏名	**お客様のご住所、お名前 電話番号**



記入例

※ご入金が確認でき次第の発送となりますので、お手元に商品が届くまでは1週間ほどかかります。

スポーツイベント・ハンドボール
毎月20日・全国書店にて発売中！

月刊誌 **スポーツイベントハンドボール**
定価800円（本体762円） 年間購読 9,600円
〒101-0047 千代田区内神田2-4-2 グローバルビル4F
TEL 03-3253-5941 FAX 03-3253-5948

●書店の店頭にない場合は「スポーツイベント・ハンドボール」（雑誌コード 15433）といえば取り寄せできます。
●毎月20日発売ですが、大会などの関係で年3回ほど発売日が変更になります。
●年間購読は、発送の関係で発売日より3～4日遅れる場合があります。

お願い
当社の電話取次時間は月曜から金曜までの午前9時30分から午後5時30分までとなります。平日の上記以外の時間及び、試合などの多い土曜、日曜は充分な対応ができません。書籍、ビデオなどに関するご注文、お問い合わせは、上記時間内にお願いいたします。

平成18年度　チーム数・選手数一覧表

（財）日本ハンドボール協会　2007/2/28 現在

	種別	一般L		一般A		学　生		高　専		高　校		中学生		小学生・少年団		リージョナル		合　計	
No.	都道府県	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	16	265	32	479	2	37	60	1,051	14	314	6	116	5	78	135	2,340
2	青森県	0	0	13	183	3	32	1	26	19	389	1	9	1	8	0	0	38	647
3	岩手県	0	0	8	148	5	90	1	28	42	845	33	750	3	85	22	300	114	2,246
4	宮城県	0	0	6	80	11	190	1	23	43	941	16	341	0	0	2	29	79	1,604
5	秋田県	0	0	8	117	2	28	1	25	12	258	7	139	1	8	0	0	31	575
6	山形県	0	0	6	100	2	27	0	0	17	356	4	64	0	0	0	0	29	547
7	福島県	0	0	7	102	3	47	0	0	43	765	31	776	3	68	3	39	90	1,797
8	茨城県	0	0	7	110	4	81	0	0	54	869	33	647	8	176	10	154	116	2,037
9	栃木県	0	0	3	56	3	44	0	0	19	339	13	306	2	78	2	25	42	848
10	群馬県	0	0	8	136	1	13	0	0	16	313	16	365	1	79	0	0	42	906
11	埼玉県	1	19	15	236	6	96	0	0	85	1,752	41	954	2	35	2	30	152	3,122
12	千葉県	0	0	9	148	10	191	0	0	59	1,090	26	339	6	113	6	87	116	1,968
13	東京都	0	0	19	344	45	833	2	33	141	2,465	57	739	2	39	47	781	313	5,234
14	神奈川県	0	0	13	209	14	261	0	0	142	2,369	74	1,290	7	67	9	107	259	4,303
15	山梨県	0	0	6	81	4	53	0	0	25	509	14	297	3	90	9	121	61	1,151
16	長野県	0	0	4	71	3	35	0	0	31	493	10	210	2	89	0	0	50	898
17	新潟県	0	0	6	49	5	65	1	19	12	265	3	27	2	28	6	64	35	517
18	富山県	0	0	8	117	3	47	1	23	26	458	31	595	13	202	7	87	89	1,529
19	石川県	1	20	11	180	6	84	2	28	24	459	24	619	1	25	5	66	74	1,481
20	福井県	1	13	4	56	2	23	1	11	19	361	14	345	5	73	5	59	51	941
21	静岡県	0	0	12	167	4	66	1	20	44	948	6	173	1	22	0	0	68	1,396
22	愛知県	5	96	12	217	26	493	1	26	240	4,973	192	4,451	17	145	0	0	493	10,401
23	三重県	2	31	9	143	3	39	1	26	41	699	30	721	3	50	0	0	89	1,709
24	岐阜県	0	0	17	281	4	58	1	23	50	955	53	953	7	235	1	7	133	2,512
25	滋賀県	0	0	7	106	3	43	0	0	23	513	11	257	0	0	2	22	46	941
26	京都府	0	0	8	101	17	246	1	24	40	724	25	497	19	411	11	85	121	2,088
27	大阪府	0	0	9	142	28	481	1	19	87	1,267	22	361	7	156	0	0	154	2,426
28	兵庫県	0	0	6	107	15	224	2	21	87	1,382	30	687	10	265	6	89	156	2,775
29	奈良県	0	0	3	71	7	116	1	16	28	491	18	311	5	62	0	0	62	1,067
30	和歌山県	0	0	4	60	2	20	1	18	21	331	14	272	1	37	8	92	51	830
31	鳥取県	0	0	3	40	2	20	1	25	15	283	6	111	0	0	0	0	27	479
32	島根県	0	0	2	25	1	9	1	36	12	191	2	26	0	0	0	0	18	287
33	岡山県	0	0	8	112	5	69	1	20	53	967	12	281	12	233	5	75	96	1,757
34	広島県	2	35	3	47	7	110	1	15	20	337	7	140	1	34	5	72	46	790
35	山口県	0	0	11	161	1	12	2	36	31	580	21	435	3	179	2	31	71	1,434
36	香川県	0	0	4	67	3	62	1	20	24	390	19	458	3	75	0	0	54	1,072
37	徳島県	0	0	2	35	5	62	1	19	12	254	2	51	0	0	0	0	22	421
38	愛媛県	0	0	9	132	5	99	0	0	31	743	6	141	1	32	0	0	52	1,147
39	高知県	0	0	5	59	1	15	1	16	11	137	8	148	0	0	5	62	31	437
40	福岡県	0	0	5	67	11	213	3	72	51	866	19	333	5	63	0	0	94	1,614
41	佐賀県	1	15	3	43	1	15	0	0	14	248	5	93	2	57	0	0	26	471
42	長崎県	0	0	9	147	1	6	1	27	29	544	14	242	3	41	0	0	57	1,007
43	熊本県	2	42	4	62	5	69	2	38	54	990	35	642	19	394	0	0	121	2,237
44	大分県	0	0	8	106	4	52	0	0	13	232	12	201	11	194	0	0	48	785
45	宮崎県	0	0	2	37	1	13	1	8	34	522	16	256	8	131	7	78	69	1,045
46	鹿児島県	1	18	6	80	3	48	1	23	29	503	15	381	2	24	3	33	60	1,110
47	沖縄県	0	0	8	130	6	130	1	18	72	1,516	46	1,287	27	524	25	339	185	3,944
合計		16	289	356	5,533	335	5,509	41	819	2,055	37,933	1,108	23,035	235	4,743	220	3,012	4,366	80,873

スコアルーム ①

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2007

開催期日：2007年2月9日(金)～11日(日)
会　　場：高知県東部総合運動場くろしおアリーナ

▼1回戦

新日本石油根岸(神奈川)	24（10－5、14－6）11	新日鐵名古屋(愛知)
自衛隊久里浜(神奈川)	29（16－7、13－14）21	豊田自動織機(愛知)
トクヤマ(山口)	27（13－3、14－9）12	ブラザー工業(愛知)
大阪ガス(大阪)	24（13－9、11－5）14	マツダ(広島)
金沢市役所(石川)	31（13－8、18－8）16	日本ゼオン(山口)

▼2回戦

八光自動車工業(大阪)	27（11－7、16－6）13	新日本石油根岸
高知クラブ(高知)	34（15－8、19－10）18	大阪ガス
セントラル自動車(神奈川)	24（9－10、15－11）21	トクヤマ
金沢市役所	31（13－13、18－16）29	自衛隊久里浜

▼準決勝

金沢市役所	29（16－10、13－17）27	八光自動車工業
高知クラブ	32（14－10、18－5）15	セントラル自動車

▼3位決定戦

八光自動車工業	31（17－6、14－15）21	セントラル自動車

▼決勝

金沢市役所	32（19－14、13－13）27	高知クラブ

<敗者トーナメント戦>

▼1回戦

大阪ガス	22（8－4、14－10）14	新日本石油根岸
豊田自動織機	26（10－8、16－11）19	マツダ
ブラザー工業	29（14－4、15－5）9	新日鐵名古屋
トクヤマ	29（15－7、14－11）18	日本ゼオン

▼2回戦

豊田自動織機	22（6－10、16－6）16	大阪ガス
トクヤマ	27（18－10、9－15）25	ブラザー工業

▼決勝

トクヤマ	29（17－7、12－12）19	豊田自動織機

<個人表彰>

大会ＭＶＰ　生瀬谷　浩一（金沢市役所）

スコアルーム ②

第20回男子世界選手権大会

開催期日：2007年1月24日(水)～2月4日(日)
会　　場：ドイツ

▼準々決勝

ドイツ	27（15－12）25	スペイン
フランス	21（10－9）18	クロアチア
ポーランド	28（16－14）27	ロシア
デンマーク	42（16－17）41	アイスランド

▼準決勝

ドイツ	32（11－12）31	フランス
ポーランド	36（15－14）33	デンマーク

▼3位決定戦

デンマーク	34（21－15）27	フランス

▼決勝

ドイツ	29（17－13）24	ポーランド

▼最終順位

1位　ドイツ
2位　ポーランド
3位　デンマーク
4位　フランス
5位　クロアチア
6位　ロシア
7位　スペイン
8位　アイスランド

注：(　)は前半のスコア

協会だより

平成18年度 第2回評議員会

日　時：平成19年2月3日（土）
13:00～16:00
場　所：明治神宮会館　第1研修室
出席者（敬称略、名簿順）
評議員：
齋藤　浩、谷藤勝美、千田文彦、後藤義信、伊藤宏幸、齋藤光男、滝口三郎、平塚一彦、中山圭三、井川邦彦、久保田龍治、村木啓作、夏目眞治、杉本眞一、前川和三、中村博幸、狩野幸介、中井慶一郎、塩崎信治、松原紀機、森江和吉、後山富士水、増田雅夫、長尾輝夫、田中達男、有光正憲、末次　功、石井通義、佐藤喜一、堀之内真澄、原田孝幸、島崎政治、齋藤節郎、川原繁樹、半田忠史
委任状提出評議員：
駒林昭三、菅野　肇、奥山重雄、安田博之、上久保重次、五味崇恵、森川利昭、青木　崇、寺崎　修、志々場修二、藤本　昇、高野　修、松本育男、田中　守、井　薫、本田娟一、新垣　健、河先　修、三辻陽夫
理　事：
山下　泉、市原則之、大西武三、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、木野　実、兼子　真、島田房二
監　事：大野金一、竹野奉昭、殿水幸雄
事務局：茂木、床尾、花塚

評議員35名、委任状提出評議員19名、出席理事9名、出席監事3名、事務局3名

〈評議員会成立の確認〉
兼子事務局長より、本評議員会が成立していることが報告。次に議長の選出が行われ、本来は渡邉佳英会長が議長となるが、IHF会議出席により不在のため、山下副会長が議長を務めることが報告された。

議事に入る前に、山下副会長より開会にあたり、日本ハンドボール界にあってはオリンピック出場は悲願であり、本年の北京オリンピック豊田予選への協力が依頼された。

審議事項

1．平成18年度第二次補正予算案について
平成18年度第二次補正予算案について、財務担当不在のため兼子事務局長より説明が行われた。統括表より当期収入を56,668,100円減じ、458,805,500円とした。これに伴い当期支出も57,125,000円削減し、500,083,680円とした。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成19年度事業計画案について
平成19年度事業計画案について、大西専務理事より各事業の概要について説明が行われた。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成19年度事業予算案について
平成19年度事業予算案について、財務担当不在のため兼子事務局長より説明が行われた。統括表より当期収入を505,149,500円、当期支出506,056,940円とした。平成18年度より4000万円余多いが、積立預金5500万円を北京オリンピック予選用に取り崩したものであること、当期収支を±0にする努力をしたことを説明したのち、主な事業予算について説明を行った。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成19・20年度役員選任について
＊新役員の選任について、各地区評議員の代表者でもってこの場で小委員会を開催し、狩野評議員より次のように発表された。大西専務の退任意向を尊重し、本評議員会では、理事として渡邉佳英会長と川上憲太常務理事をまずは選任し、他理事については両名の相談により決定することが一任された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．評議員旅費について
＊前評議員会からの懸案事項であるが、これも各地区評議員の代表者でもって、この場で小委員会を開催し検討することとしたが、結論は出ず、先送りすることとした。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．プロジェクト21（登録人数、ナショナル、他）について
大西専務理事より、プロジェクト21について説明された。

2．平成19年度国内・国際大会日程（北京アジア予選）について
江成常務理事より、平成19年度の国内及び国際大会の日程について説明された。

3．平成19年度会議日程について
兼子事務局長より、平成19年度の会議日程について説明された。

4．平成18年度の主な国際大会結果について
蒲生常務理事より、平成18年度の日本出場の国際大会結果について説明された。

5．10万人会について
大西専務理事より、10万人会の現状について説明された。

6．その他
1）狩野評議員よりのじぎく兵庫国体のお礼がなされた。
2）伊藤評議員より男女ナショナル監督が外国人になっているのだからＰＲをもっとされてはとの提案があった。

平成18年度 第3回理事会

日　時：平成19年2月17日（土）
13:00～16:00
場　所：日本青年館503
出席者（敬称略、名簿順）
理事：
渡邉佳英、山下　泉、市原則之、大西武三、村松　誠、角　紘昭、蒲生晴明、江成元伸、川上憲太、兼子　真、島田房二、西窪勝広、福地賢介、森安昭雄、高山重雄、西村亮治、宮元章次
監事：大野金一、竹野奉昭、殿水幸雄
参事：
山下勝司、佐々木英明、小西博喜、武田節夫、稲生　茂、竹内佳明、野村幹雄、武田末男、水上　一、笹倉清則、佐藤　靖、本間誠章、坂本静男、大塚文雄、後藤　登、大橋則一
事務局：茂木、床尾

出席者　理事17名、委任状出席3名、出席監事3名、出席参事16名、事務局2名

〈理事会成立の確認〉
本理事会が成立していることが報告された後、議長の選出が行われ、会長が議長に選出された。

渡邉会長より会議開始にあたり、次のように挨拶があった。
ドイツでの世界選手権視察と会議出席のため、1月中に二度ドイツを訪問した。このところ、IHFに対抗する大陸の図式が明らかになってきており理事の選任についても大陸主導に移ってきていることから、動議の可決にもその反映が見られる。
世界選手権については、決勝戦で全く異なる采配の監督が見られた。ドイツの監督は殆ど指示を出さず、選手自身が考えてプレーをしていた。ポーランドの監督は、あわや退場を宣告されるのではないかと思われる程積極的に細かい指示を出していた。結果としてドイツが優勝したところをみる限りでは、選手たちに考えさせる采配が勝っていたのだと思われる。
この2年間でハンドボールのレベルが上がっていること、とにかく走りまわるパワフルなものになってきているので、日本も追いつくようにしなくてはならない。

審議事項

1．平成18年度第二次補正予算案について
村松常務理事より説明された。レフェリー研修などの新規予算計上。女子オリンピックアジア予選開催地変更による、予算の補正。外国人コーチ料の減額。支出超過分を、繰越金から捻出など主に補正した事業に

ついて説明された。統括表より当期収入を56,668,100円減じ、458,805,500円とした。これに伴い当期支出も57,125,000円削減し、500,083,680円とした。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成19年度事業計画（案）について

大西専務理事より説明された。企画委員会は西窪常務理事を中心に、それぞれの担当者が大会に絡む事業の展開を図る。国体のあり方を見直す。インターネット中心の時代になり広報はWeb中心にならざるを得ないが、機関誌も良いところを残しながら継続していくなど。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成19年度事業予算（案）について

村松常務理事より説明された。各部署から予算をくみ上げた結果、マイナスの額となったことから一律減額した。本来、年度始めの4月、5月は収入がない状況で予算がスタートとなることから、繰越金は5,000万円プールすることが望ましいとした。収入については、検定料－1件契約減。参加料－トップ・レフェリー等これまで計上していなかったが今期より計上。マーケティングは、パンフレット広告、ユニフォーム広告等で収入増を図る。補助金の90万円のうち、60万円は日本体育協会の補助。コーチ養成事業は、日本体育協会の補助による。企画（プロジェクト21）は、西窪常務理事を中心に前年比プラスを目指す。大崎企業スポーツ助成事業は、現在未申請のため計上されていないが、助成が確定した場合、第一次補正で行う。支出超過を抑えることにより、繰越金を保つ。統括表より当期収入を505,149,500円、当期支出506,056,940円とした。平成18年度より4000万円余多いが、積立預金5500万円を北京オリンピック予選用に取り崩したものであること、当期収支を±0にする努力をしたことを説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．全日本教職員ハンドボール連盟退会について

教職員連盟理事長の山下参事より退会に至る経緯について挨拶を兼ね説明された。教職員連盟としては、存続を賭けて復活を目指したもののチーム数は減少し、教職員では人数が足りず実際には一般も含まれるといった実状であった。マスターズ大会の主管などをしながら5年間様子を見てきたが進展はなく、協会の寄付行為に反するとの判断から退会届を提出するに至った。長きに渡りお世話になったことへの感謝の意が述べられた。大西専務理事は、話合いを行ってきたが、現実的に教職員だけで存続させることは難しいとの結論に至り、退会はやむを得ないと考えるとした。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

渡邊会長より、きわめて残念ではありますが、今まで有難うございましたと労われた。

5．平成19・20年度役員選任について

大西専務理事より、平成18年度での退任者について、山下泉副会長の定年、大西武三専務理事、村松誠常務理事、木野実常務理事、平岡秀雄常務理事の法定理事5名の退任と竹野奉昭監事と殿水幸雄監事の定年、大野金一監事の退任が述べられた。これを受けた、先回の評議員会での人選委員選出について説明があり、評議員会において人選委員を決定し同委員を中心に人選を行った。これにより、渡邊会長と川上常務理事が選任され、他の理事・監事については両名に一任されたことが報告された。川上常務理事より、理事・監事選任状況の現状報告がされた。新理事として伊藤宏幸氏、大橋則一氏、田中茂氏、新監事として荘林康次氏、川上整司氏にそれぞれ要請していることが述べられた。退任者の内、山下泉副会長、竹野奉昭監事には特任副会長、大野金一監事、殿水幸雄監事には参与の就任が要請された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．AHF理事会・総会の出席者について

大西専務理事より説明され、本来であれば、来年度の総会であることから新理事で決定するべきだが、締切日が本日となっているためこの場で決定する。渡邊会長はAHF第一副会長、西山参事はAHF医事委員会の委員長であり両名ともにAHFの理事であるので参加とする。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7．日体協評議員・JOC理事・監事選任について

大西専務理事より、日体協評議員およびJOC理事への日本協会推薦者として、市原副会長を推すことにしたと説明があった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．プロジェクト21について

大西専務理事よりプロジェクト21の説明が行われた。

2．強化関係報告

蒲生常務理事より、強化の現状について説明された。NTSセンタートレーニング参加者より、5～7名に絞込み、2007年度強化選手とする。春中でのイベントとして、サイン会に宮﨑選手を派遣する。

3．医事専門委員会・事業概要について

医事委員長坂本参事より、アンチ・ドーピング及び医事について説明があった。

全日本学連理事長の福地理事より、インカレにおけるドーピング検査方法について質問がなされ、坂本参事より回答がなされた。

4．技術委員会報告

角常務理事より本年度3回開催された競技者育成技術委員会について説明された。

5．平成20年度叙勲候補者推薦、第2回日本スポーツグランプリ推薦について

村松常務理事より、平成20年度叙勲候補者として山下泉副会長を、第2回日本スポーツグランプリ候補者として河内鋭雄氏を推薦することが説明された。

6．平成18年度日本協会表彰について

村松常務理事より、平成18年度の各連盟からの日本協会表彰推薦が依頼された。

7．平成19年度登録について

兼子事務局長より、平成19年度の登録について説明された。クラブ・ニッポンの登録カード発行については、諸般事情により本年度発行を断念したことが説明された。

緊急動議として日本協会役員（役員区部A-D）について会費の見直しが提案された。審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

8．平成19年度国内・国際大会日程について（大会要項）

兼子事務局長より、平成19年度の大会日程について説明された。ヒロシマ国際は、6月29日（金）～7月1日（日）に、東インカレは、会場地が仙台市から富谷町と大和町に変更があった。

9．平成19年度会議日程について

兼子事務局長より、平成19年度会議日程について説明された。新執行体制により、会議日程が変更される可能性が説明された。

10．国体プロジェクト及び国体関連事項について

稲生参事から、国体プロジェクトの進捗状況につい説明された。江成常務理事より、平成18年度兵庫国体における岩手県のふるさと選手の登録不備について報告された。高山理事より、公認指導者資格の所持について確認質問がされ、ブロック大会では望ましいであるが、本大会では、監督が所持しなければならないことが確認された。

11．国際大会結果

蒲生常務理事より、平成18年度の国際大会結果について説明された。

12．国際関連事項について

兼子事務局長より、最新の国際情報について説明された。

13．日本リーグプレーオフについて

川上常務理事より、本年度の日本リーグプレーオフについて説明された。

市原副会長より、補足説明として、平成17年度には観客動員、無料券の配布などの効果により立ち席も出てきたことから、観客動員はもうやめて、有料入場者の増員に努めるべき。企業応援は下がって、一般観客を優先するべき。ホンダ熊本が本年度で退会するが、沖縄では新規立ち上げがあり、平成20年度から参戦予定。チーム、カテゴリーにおいて参加を増やすようご協力願いたい。稲生参事より、外国人審判員の試合を全国ネットで放映して欲しいと要望された。

14．がんばれハンドボール10万人会

兼子事務局長より、がんばれハンドボール

10万人会について説明された。

15. その他

小西参事より、車椅子ハンドボール大会の開催は大変なので、平成19年度は岡山県協会に依頼している。

予定していた議案について全て終了した。最後に大野監事より労いの言葉が述べられ、16時に平成18年度第3回理事会は閉会した。

平成18年度事務取扱責任者

日　時：平成19年2月18日（日）
　　　　13:00～16:00
場　所：日本青年館501
出席者（敬称略）
理事：
大西武三、村松　誠、角　紘昭、兼子　真
事務取扱責任者：
武田節夫、谷藤節雄、渡邊　泰、高山重雄、岸波重幸、新井恵美、新井喜人、野口美和、高島幸嗣、定森秀光、辻　昌彦、青木和彦、山本幹雄、北橋直樹、伊藤昭一、油上　智、中　弘美、堀　裕邦、中森雅彦、花野相三、吉田正明、奥田政俊、岡　昌史、森安昭雄、高野　修、飯島浩太、馬場文彦、田村敏明、政田佳之、百武啓文、奥園栄純、長尾明徳、宮元章次、瀬尾重俊、中野利一、福地賢介、本田眞吾、中島康典
事務局：床尾、花塚

出席理事4名、事務取扱責任者出席38名、事務局2名

議　題

1. 平成19年度事業計画について（大西専務理事より説明）

- プロジェクト21；西窪理事を中心に、大会が大会だけで終わらないように事業を通してハンドボールを発展させようという主旨を説明。
- ヤングレフェリー；新しく昨年から始まっているもの。
- 機関誌；発行部数は減少しているが、インターネットと併用しながら継続。
- 財務；運営費は、理事会を中心に展開。
- 日本リーグ；今年度でホンダ熊本が撤退。また、沖縄では新規立ち上げがある。
- 10万人会；小・中学生登録も含めて登録については後ほど説明。

2. 平成19年度事業予算について（大西専務理事より説明）

- マーケティング；来年の北京オリンピックの予選前であるが、熊本記念大会、愛知プレ大会、広島国際大会がある。
- 助成金支出；ブロック小学生大会で10万円の補助。ハンドボール助成金で、小学校の研究授業。地域スポーツ（U-15あたり）大会を開催することで、チームを育てる。指導者の育成。
- 繰越金；6月以降しか収支が入らないことから、大変厳しい状況。
- 負担金；選手一人ひとりに負担させるもの。特別会計に持っていくための一般会計。
- 大崎企業スポーツ財団；大崎電気が中心となる企業スポーツ財団。
- toto助成金；totoくじの売り上げ減っている影響で今年は100万円程度。今年は積立金の取り崩しあり。

3. 指導・普及事業について（角常務理事より説明）

森安理事長（岡山）より小学校参加申込書の記入を分かりやすくして欲しい。大西専務理事より、助成金の申請では、必ず決算書を提出すること。大会におけるマーケティングを行い、独り立ちできるようにすること。助成金の適正な額を設定するためにも、受け取ったからには結果報告をすること。等があった。

4. 平成19年度国際・国内・ブロック大会日程について

兼子事務局長より説明。

5. 平成19年度会議日程について

兼子事務局長より説明。

村松常務理事より、文科省の審査により、一般財団または公益財団に分かれる。公益法人として認可されるためにも、財務報告等の協力をして頂きたい旨の説明あり。森安理事長（岡山）より、評議員の交通費がどのような結論になったかとの質問に対して、大西専務理事より日本協会がこれまで費用を負担してきたが、日本協会の理事を選ぶ評議員の交通費を選ばれる側が負担するのは如何なものか。先回の評議員会で決定するはずだったが、まだ決定に至ってないと回答あり。

6. 国際大会結果

兼子事務局長より説明。詳細は日本協会ホームページで。今年はオリンピックアジア予選があるので、各都道府県協会でも5万円くらいお願いしたい。大会結果については、ホームページに掲載しているので参照すること。

7. 国体について（指導者資格、ふるさと選手）

兼子事務局長より説明。秋田国体より条件が変更されるので注意が必要。有資格指導者については、望ましい→であること、となる。最低4人は、各県有資指導者がいるということに基づく。指導者資格について誤解が生じている。広島、熊本、岩手は、平成18年度の合格は平成19年6月までの手続きが必要。ブロック大会については、有資格指導者を、望ましい、に留めている。ハンドボールの規定としては役員4名とあるが、国体では監督1名と選手12名である。この場合、監督は有資格者でなくてはならない。そのほか、体協からの通達については資料参照のこと。国体におけるふるさと選手の取扱いに注意すること。（各県において、例題参照の上、手続きを把握しておくべき。）

高山理事長（秋田）より、秋田国体では、少年男子のみ民泊となる（地元応援として、民泊を利用する）。

8. 平成19年度登録について

兼子事務局長より、登録業務必携小冊子を用いて説明。クラブニッポン・カード発行のお詫びと、二重登録ついて注意あり。大学生が出身校のOBチームに入るケースが多く見受けられるが、学連でも二重登録を認めてはいない。女性委員会の要請により、指導者の性別を必ず記載して頂きたい。県単位で全て電子受付をしている場合のみ、日本協会へはCDでの送付も可能とする。等があった。

9. 登録資料（CD）

兼子事務局長より、配布のCDについて説明。

10. がんばれハンドボール10万人会について

中野参事より説明。10万人サポート会員は、さらなる増員が見込める。各県にとって収入となるので、加入の増加を図って頂きたい。ペアチケットによって主催者の入場券収入は減るとしても、個人的には会員を歓迎して入場させて頂きたい。

11. 平成18年度日本協会表彰者推薦について

兼子事務局長より説明。各連盟・都道府県に推薦が依頼された。

12. 平成19・20年度日本協会評議員推薦について

兼子事務局長より説明。役員改選に伴い、平成19・20年度の評議員推薦が依頼された。

13. 平成19年度加盟団体調査票提出について

兼子事務局長より説明。本年度は改選期のところが多いので、引継ぎに穴を開けないように早めに提出すること。経費節減と情報伝達迅速化のため、各県の担当者またはアドレス所持者を2名以上提出すること。各県のホームページ作成など、時代に対応するためWebの活用を求められた。

14. 日本リーグプレーオフについて

兼子事務局長より説明。

15. JOCスポーツと環境について

兼子事務局長より説明。スポーツと環境について啓蒙が依頼された。

16. その他

1）春中について、中体連は後援で共催にはならないので、参加選手は費用を全額負担となる点について質問あり。大西専務理事より費用については、おそらく学校及びPTA、県協会がバック・アップしていると思われる。日本協会が負担できたらそれにこしたことはないが現状として難しい、又、中体連は中学校単位になるので、クラブチームの参加が出来なくなると回答された。

2）中野教職員事務局長より、全日本教職員連盟が今年度限りで日本協会を退会することが報告され、その経緯とお礼が述べられた。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会」2月入会・継続会員

【山形】五島訓二　【群馬】永井栄子　【埼玉】細津　誠、豊田　武、豊田久恵　【東京】岡田好永、石坂洋介
【神奈川】岩柳昌宏、田村修治　【石川】寺垣俊彦　【愛知】筒井理絵　【大阪】藤井貴也　【兵庫】本多美穂
【岡山】直本ちあき　【広島】田中友紀、植木智大　【熊本】岡崎恭代、高木　弘

【4月の行事予定】

【会　議】

4月14日（土）

常務理事会（愛知・豊田市総合体育館会議室）



【大　会】

4月3日（火）～6日（金）

第4回東アジアクラブ選手権（韓国・ソウル）

4月28日（土）・29日（日）

第9回全日本ビーチハンドボール選手権大会

（千葉県・南房総市）

HAND BALL CONTENTS Apr.

（登録チームの購読料は登録料に含む）



(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四七九号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成十九年三月二十六日印刷 平成十九年四月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 〇三ー三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円